

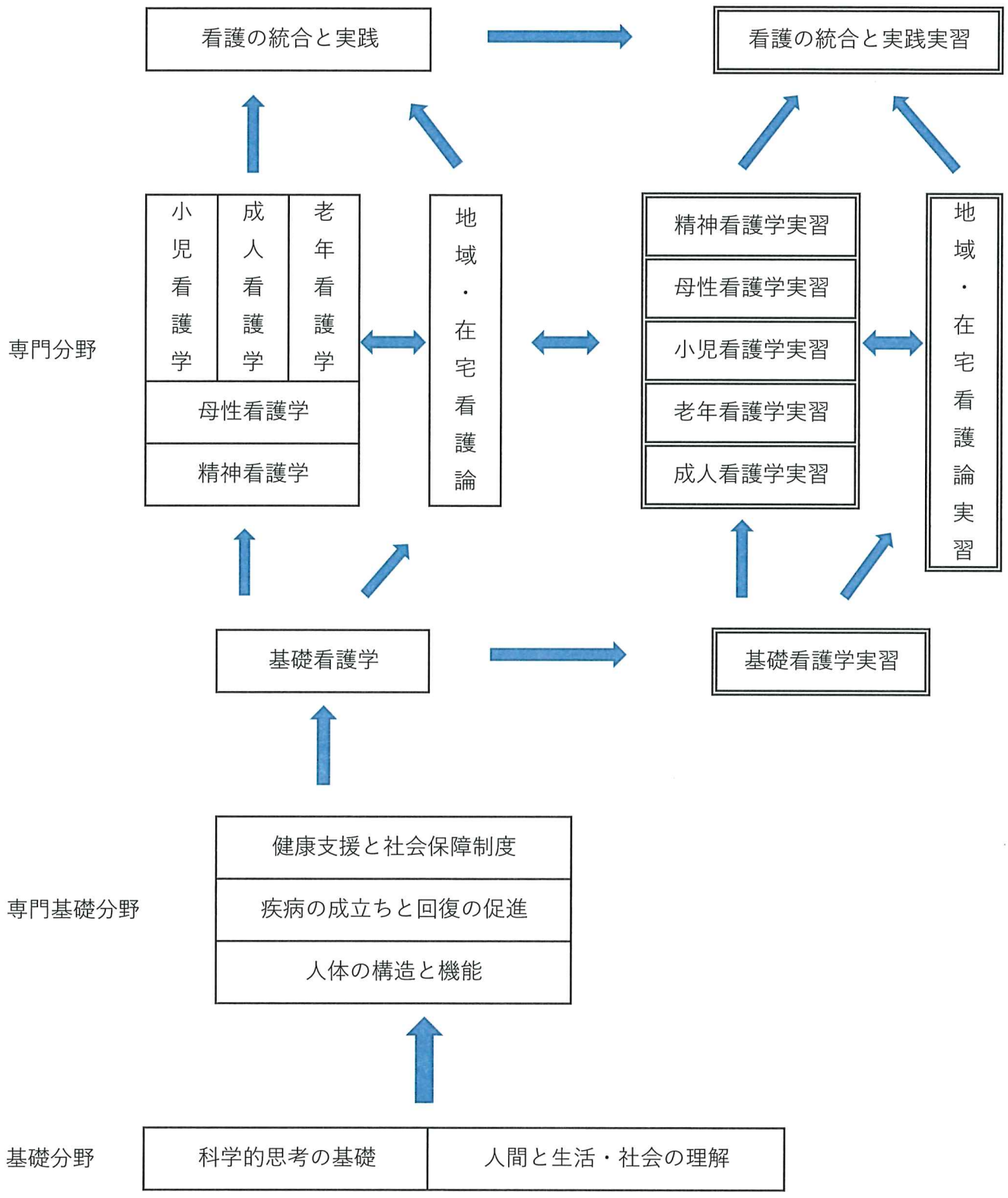
2022年度

教育要項

(シラバス)

岩手看護専門学校 本科

《 科目の構成図 》



《各分野の考え方》

【基礎分野】

専門基礎分野、専門分野の基礎となる科目で構成する。

幅広い視野でものを見ることや、対人関係を円滑に保つ方法など、看護に必要な人間の理解につながる科目として1年次から3年次にわたり学ぶ。

【専門基礎分野】

人体を系統立てて理解し、看護を実践する上で必要な観察力や臨床判断力を身につけるための学習内容とする。

生涯を通じて、健康・疾病・障がいいずれの状態にあっても、必要に応じて社会資源を活用することができるための基礎的知識を習得する科目で構成する。

【専門分野】

「看護とは何か」、「看護師の仕事とはどのような内容か」「看護師に求められる倫理的判断」などについて、看護学生として自ら考えることができるよう入学当初から学べるようにする。

地域で生活する人々とその家族を理解し、地域の様々な場における看護を学び、多職種と協働する重要性を1年次から学ぶ。

成長発達段階を理解し、様々な健康状態にあり看護を必要としている人々に対し、健康の保持・増進、疾病予防という観点から深く学ぶ。

臨床判断力を育成するために、専門分野、専門基礎分野で学んだ内容をもとに、講義・演習・臨地実習を連動させ看護実践を段階的に学ぶ。

学生の成績における客観的指標の設定 および 活用について

1 目的

学生の成績を客観的な指標（平均点 で示 すことにより、学生の自主的・意欲的な学修 を促すとともに、教員による教育指導を効果的・効率的に実施することを目的とする。

2 客観的指標の設定

全履修科目 における評価点数の 平均点（各年度による）を 客観的指標とする。

3 具体的算出方法

令和 年度

客観的な指標の算出方法										
全履修科目の成績評価を100点満点で点数化し、全科目の合計点の平均点を算出する。										
学科名： 科 学年：第 学年 学生数： 名										
成績の分布										
指標の数値 (平均点)	～59点	60～ 64点	65～ 69点	70～ 74点	75～ 79点	80～ 84点	85～ 89点	90～ 94点	95～ 99点	100点
人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(%)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
下位1/4に該当する人数 : 名										
下位1/4に該当する指標の数値 : 点以下										

算出結果については校内に掲示を行う

目次

基礎分野

情報処理学	1
教育学	2
物理学	3
心理学	4
倫理学	5
法 学	6
人間関係論	7
カウンセリング	8
家族社会学	9
英 語	10
倫理的思考	11
保健体育	12

専門基礎分野

人体の構造と機能Ⅰ	13
人体の構造と機能Ⅱ	14
生化学・分子遺伝学	15
臨床栄養学	16
臨床薬理学	17
薬理学Ⅱ	18
臨床微生物学	19
病理学Ⅰ	20
病理学Ⅱ	21
病理学Ⅲ	22
病理学Ⅳ	23
病理学Ⅴ	24
病理学Ⅵ	25
病理学Ⅶ	26
病理学Ⅷ	27
看護学的視点による疾病理解	28
公衆衛生学	29
社会福祉学	30
関係法規	31
保健医療福祉論	32

専門分野

看護学概論	33
コミュニケーション技術	35
フィジカルセサメント	36
共通基本技術	37
日常生活を整える援助	38
身体機能の障害に応じた援助技術	39
治療を伴う援助	40
臨床看護総論	41
看護過程と臨床判断	42
地域と暮らし	43
成人看護学概論	44
成人看護学方法論Ⅰ	45
成人看護学方法論Ⅲ	47
成人看護学方法論Ⅳ	48
老年看護学概論	50
老年看護学方法論Ⅰ	51
老年看護学方法論Ⅱ	52
老年看護学方法論Ⅲ	53

専門分野Ⅰ

看護学概論Ⅱ	34
--------	----

専門分野Ⅱ

成人看護学方法論Ⅱ	46
成人看護学方法論Ⅴ	49
小児看護学概論	54
小児看護学方法論Ⅰ	55
小児看護学方法論Ⅱ	56
小児看護学方法論Ⅲ	57
母性看護学概論	58
母性看護学方法論Ⅰ	59
母性看護学方法論Ⅱ	60
精神看護学概論	61
精神看護学方法論Ⅰ	62
精神看護学方法論Ⅱ	63
精神看護学方法論Ⅲ	64

統合分野

在宅看護概論	65
リハビリテーション看護	66
在宅看護技術論	67
緩和ケア	68
看護管理	69
国際看護	70
医療安全	71
災害看護	72

臨時実習

基礎看護学実習Ⅰ	73
基礎看護学実習Ⅱ	74
地域と暮らしを知る実習	75
成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	76
老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ	77
小児看護学実習	78
母性看護学実習	79
精神看護学実習	80
在宅看護論実習	81
看護の統合と実践	82

科目名	情報処理学				
開講時期	2年次前期	単位数	1	時間数	30
講師	藤原 俊朗		実務経験とその関連資格		
一般目標	保健医療の分野でコンピューターの活用が必要不可欠になっている。そのため、基本操作及びプレゼンテーション方法について学ぶ。				
成績評価	単位認定試験の成績で総合評価する。				
教科書	講師作成の資料		授業の方法	講義	
教科内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. パーソナルコンピューター入門（基本的操作について） 2. 電子メールの活用方法 3. インターネットの活用方法 4. 計算表ソフトの活用方法 5. プレゼンテーションソフトの活用方法 成果発表 				

科目名	物理学				
開講時期	1年次前期	単位数	1	時間数	30
講師	三浦 健司		実務経験とその関連資格		
一般目標	対象者に日常生活援助技術や診療の補助技術を実施するための物理学の知識を学ぶ。				
成績評価	単位認定試験の成績で総合評価する。				
教科書	ベッドサイドを科学する (学研)		授業の方法	講義	
教科内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 力学 <ul style="list-style-type: none"> 力の合成と分解 てこの原理 重心・安定性 作用・反作用 摩擦 2. 圧力 <ul style="list-style-type: none"> 圧力の表し方 圧力・温度・体積の関係 動圧と静圧 気圧 血圧 持続吸引器の原理 浸透圧 3. 熱現象 <ul style="list-style-type: none"> 温度変化と比熱 潜熱 熱の移動 4. 酸・アルカリとpHの関係 5. 濃度の表し方と物質の溶け方 				

科目名	教育学				
開講時期	2年次後期	単位数	1	時間数	30
講師	本山 敬祐		実務経験とその関連資格		
一般目標	看護師に求められる能力の一つである教育能力は、対象のライフスタイルに応じた「健康づくり」を積極的に支援するために必要なものである。ゆえに、健康教育を行ううえで必要となる知識・技術を学ぶ。				
成績評価	単位認定試験の成績で総合評価する。				
教科書	「普通教育とは何か」 (地歴社)		授業の方法	講義	
教科内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人の成長と教育 2. 家庭教育 3. 生涯教育 4. 教育の目的 5. 学習指導 集団指導と個別指導 6. 生活指導 7. 学ぶ側の条件 8. 教える側の条件 9. 教育における現代的問題 				

科目名	心理学				
開講時期	1年次前期	単位数	1	時間数	32
講師	塚野 弘明		実務経験とその関連資格		
一般目標	あらゆる成長発達段階にある個人及び集団の心の健康増進と、心の問題を予防・解決できるための基礎となる知識と実践方法について学ぶ。				
成績評価	単位認定試験の成績で総合評価する。				
教科書	講師作成の資料		授業の方法	講義	
教科内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間のこころとは 2. 患者の心理を学ぶ 3. 死にゆく人の心理を学ぶ 4. 告知を受ける患者の心理について学ぶ 5. 発達障害 6. 愛着傷害 7. 虐待とトラウマ 8. HSP (Highly Sensitive Person) 				

科目名	倫理学				
開講時期	1年次前期	単位数	1	時間数	30
講師	開 龍美		実務経験とその関連資格		
一般目標	社会における倫理的規範についての知識を学ぶとともに、医療・看護における専門職としての倫理問題についても学ぶ。				
成績評価	単位認定試験の成績で総合評価する。				
教科書	講師作成の資料		授業の方法		講義
教科内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 倫理学の基礎 <ol style="list-style-type: none"> 1) 倫理とは 2) 価値とは 3) 規範とは 4) 倫理と道德 5) 倫理と法律 6) 徳 7) 倫理的原則 2. 倫理と文化 <ol style="list-style-type: none"> 1) 和（協力） 2) 礼 3) 家 4) 面子 5) 思いやりの心（compassion） 6) パターナリズム 7) 個人の権利 <ol style="list-style-type: none"> ①機会の権利 ②拒否の権利 3. 生命倫理（bioethics） <ol style="list-style-type: none"> 1) 生物倫理の学の背景 2) 医の倫理と生命倫理 <ol style="list-style-type: none"> ①人工妊娠・中絶、体外受精、代理出産など ②遺伝子治療 ③人口臓器 ④脳死、尊厳死、安楽死 ⑤ターミナルケア ⑥患者の権利 ⑦臓器移植 ⑧心身障害 ⑨遺伝子組み換え ⑩クローニングと万能細胞 ⑪地球環境問題 ⑫人口問題 4. 職業倫理 <ol style="list-style-type: none"> 1) 職業倫理とは 2) 職業倫理のもつ意味 3) 職業倫理としての看護倫理 4) 看護師倫理規定 5) 患者の権利擁護 6) インフォームドコンセント 7) ジレンマ（dilemma） 8) 個人情報と倫理 				

科目名	法 学				
開講時期	2年次前期	単位数	1	時間数	30
講 師	菅野 耕毅		実務経験とその関連資格		
一般目標	憲法と法の内容を理解し、倫理的・法的な知識や医療過誤への対応や医療経済を含めた社会問題に関する知識を学ぶ。				
成績評価	単位認定試験の成績で総合評価する。				
教科書	事例法学 (法学書院)		授業の方法	講 義	
教科内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 法律のしくみ 2. 法律の解釈の仕方 3. 民法 4. 刑法 5. 医療と法 6. 日常生活にみる法 				

科目名	人間関係論 (コミュニケーション)				
開講時期	1年次前期	単位数	1	時間数	32
講師	塚野 弘明		実務経験とその関連資格		
一般目標	保健福祉及び福祉の分野で、人間関係を成立させるための知識と技術の基本を理解する。				
成績評価	単位認定試験の成績で総合評価する。				
教科書	系統看護学講座 人間関係論 (医学書院)		授業の方法	講義	
教科内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間存在と人間関係 <ol style="list-style-type: none"> 1) 人間関係の基本的意義 2) 看護ケアや社会福祉援助における人間関係のとらえ方 2. 社会的相互作用と社会的役割 <ol style="list-style-type: none"> 1) 社会的相互作用 2) 社会的役割 3. コミュニケーション <ol style="list-style-type: none"> 1) コミュニケーションとは 2) コミュニケーションの障害 3) 援助的コミュニケーション 4) I T 機器の普及に伴う効用と問題点 4. 人間関係の研究と応用 <ol style="list-style-type: none"> 1) 人間関係に関する研究 2) カウンセリングに関する理論と実践 5. 人間関係を向上させるためのスキル 6. 保健医療チームの人間関係 <ol style="list-style-type: none"> 1) 保健医療チームの特質 2) 保健医療チームにおけるチームワークの意義 7. 家族の人間関係と看護師の役割 8. ソーシャルサポートをめぐる人間関係 <ol style="list-style-type: none"> 1) ソーシャルサポートとは 2) ソーシャルサポートネットワークの活用 				

科目名	カウンセリング				
開講時期	2年次前期	単位数	1	時間数	30
講師	山本 奨		実務経験とその関連資格		
一般目標	心の心配事・苦しみ・悩み・迷い・葛藤などの諸問題をもっている対象に対し、援助・助言・指導をして解決に導いていくための基礎となる諸理論・諸技術を学ぶ。				
成績評価	単位認定試験の成績で総合評価する。				
教科書	講師作成の資料		授業の方法	講義	
教科内容	<p>1. カウンセリング総論</p> <p>1) カウンセリングとは</p> <p>2) カウンセラーの倫理</p> <p>3) カウンセリングと精神医学との連携</p> <p>①対象別心理療法②メンタルヘルスと心理療法③器質障害と神経心理学</p> <p>4) コミュニティケアとカウンセリング</p> <p>5) 産業カウンセリング</p> <p>2. カウンセリング・心理療法の各種理論</p> <p>1) カウンセリング理論の歴史</p> <p>2) 特性因子理論</p> <p>3) 行動療法・認知行動療法の理論</p> <p>4) 精神分析から発展した理論</p> <p>①精神分析の発展 ②交流分析・エゴグラム</p> <p>5) 来談者中心療法</p> <p>①非指示的療法②来談者中心療法③パーソナルセントード・アプローチ</p> <p>④ペアリック・エンカウンター・グループ</p> <p>6) 実存主義に基づく理論</p> <p>①実存主義の歴史 ②ゲシュタルト療法 ③現実療法</p> <p>7) 日本で開発された療法 ①森田療法 ②内観治療</p> <p>8) その他の心理療法</p> <p>①箱庭療法 ②芸術療法 ③時間制限療法 ④スポーツ療法</p> <p>⑤生活分析的カウンセリング法</p> <p>3. 発達カウンセリング</p> <p>1) ライフステージと発達課題</p> <p>2) 乳幼児期・児童期の発達特性とカウンセリング</p> <p>3) 青年期・成人前期の発達特性とカウンセリング</p> <p>4) 成人・中年期のライフステージ</p> <p>5) 老年期のカウンセリング</p> <p>4. 学校カウンセリング</p> <p>5. 産業カウンセリング</p> <p>6. 家族カウンセリング</p> <p>7. 臨床心理学的地域援助</p> <p>8. 心理アセスメント</p> <p>9. 演習 1) 座る位置と緊張 2) 相づちの打ち方 3) 事柄の反映・感情の反映</p> <p>4) 看護業務で直面するジレンマを感じる患者・家族・同僚とのかかわり方</p>				

科目名	家族社会学				
開講時期	1年次前期	単位数	1	時間数	30
講師	高橋 昇	実務経験とその関連資格		臨床心理士	
一般目標	複雑多様化する社会の中で、文化や地域・家族の果たす役割について考え、現代人の多様な価値観や人間行動の変化、人間の生活状態について学ぶ。				
成績評価	単位認定試験の成績で総合評価する。				
教科書	家族の心理 (サイエンス社)	授業の方法		講義	
教科内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 家族とは何か 家族の機能 家族という関係の特殊性 現代の家族 2. 家族の健康 家族ライフサイクル論 家族機能測定尺度 3. 家族づくりの準備 思春期・青年期と家族 アイデンティティ確立のための発達課題 4. 夫婦の発達 5. 子どもが育つ場としての家族 養育のためのシステムづくり 親子関係の変容 6. 変化する社会の中の家族 システムとしての家族 変動する文化社会的コンテクスト 社会構成主義 7. 家族社会に役立つ臨床倫理 家族心理の理解に役立つ家族療法のカギとなる概念 8. 家族の変化に役立つ臨床理論 ジョイニングと多方向への肩入れ リフレーミング エナクメント 9. 家族への臨床的アプローチ 心理援助の形態 家族にふりかかるストレス 家族間に起こる暴力に対する臨床的アプローチ 思春期・青年期の子どもがいる家族への臨床的アプローチ 喪失に対する臨床的アプローチ 10. 事例をもとに家族を考える 不登校 摂食障害 				

科目名	英 語				
開講時期	2年次後期	単位数	1	時間数	30
講 師	マルコム・ラーセンズ		実務経験とその関連資格		
一般目標	英語は医療界で公用語として使用されている。必要な専門用語を理解し、それを使って口頭や文章で表現することができるように学ぶ。				
成績評価	単位認定試験の成績で総合評価する。				
教科書	看護系学生のための実践英語	授業の方法		講 義	
教科内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎英語の復習 <ol style="list-style-type: none"> 1) 発音 2) 筆記体 3) 文法 4) 発音記号 2. 品詞、文型、節、句 3. 文章読解 4. 自己紹介文の作成 5. Self-introduction (グループワーク) 6. 人体各部の名称 7. 病名 8. 不規則変化動詞 9. 時制・受動態 				

科目名	論理的思考				
開講時期	1年次前期	単位数	1	時間数	30
講師	望月 善次		実務経験とその関連資格		
一般目標	さまざまな医療職として協力して働く看護師は、情報を記録として正しく正確に残す責任がある。そのために必要な文章や文の組み立て方、論文の書き方を学ぶ。				
成績評価	単位認定試験の成績で総合評価する。				
教科書	講師作成の資料		授業の方法	講義	
教科内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 書けるようになるための演習 「書く」体験を重ねる 3点列挙（理由）方式 3. レポート評論 4. ディベート シナリオディベート 5. 文献活用 6. スピーチ 				

科目名	保健体育				
開講時期	3年次後期	単位数	1	時間数	15
講師	佐々木 亮平		実務経験とその関連資格	保健師	
一般目標	現代社会における余暇時間の増大と高齢化において、健康の保持増進・運動機能の向上等を図り、心身の健全な発達についての知識を得、実技を通して学ぶ。				
成績評価	単位認定試験の成績で総合評価する。				
教科書	なし		授業の方法	実技	
教科内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 他己紹介・グループ編成 2. ストレッチ法 3. スポーツと健康 4. バレーボール（実技） 5. グランドゴルフ（実技） 6. 卓球（実技） 7. 室内ホッケー（実技） 8. バドミントン（実技） 9. ペタンク（実技） 				

科目名	人体の構造と機能 I (解剖学)				
開講時期	1年次前期	単位数	1	時間数	40
講師	藤原 尚樹		実務経験とその関連資格		
一般目標	看護の対象である人間の身体構造の緻密性と精巧性について学ぶ。				
成績評価	単位認定試験の成績で総合評価する。			授業の方法	講義
教科書	人体の構造と機能 (1) 解剖生理学 (医学書院) 講師作成テキスト				
教科内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 解剖学概論 2. 骨学総論、関節のしくみ 3. 頭蓋骨を構成する骨 人体の筋概論 4. 筋学総論 消化器系概論 5. 呼吸器系 血液造血器 6. 脈管学 7. 全身の動脈系 全身の静脈系 8. 泌尿器系 内分泌系 9. 神経系概論 ニュートロンの構造・シナプス 10. 感覚器 女性生殖器 男性生殖器 				

科目名	人体の構造と機能Ⅱ（生理学）				
開講時期	1年次前期	単位数	1	時間数	40
講師	木村 眞吾		実務経験とその関連資格		
一般目標	人体の機能を理解し、人体の生命活動の緻密性・合理性について学ぶ。				
成績評価	単位認定試験の成績で総合評価する。		授業の方法	講義	
教科書	人体の構造と機能（1）解剖生理学（医学書院） 解剖生理学ワークブック				
教科内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 解剖生理学を学ぶための基礎知識 構造と機能からみた人体 2. 栄養の消化吸収 3. 腹部消化管の構造と機能 4. 呼吸と血液のはたらき 5. 血液の循環とその調節 6. 体液の調節と尿の生成 7. 自律神経系による内臓の調節 8. 内分泌系による内臓機能の調節 9. 興奮性細胞の性質 10. 身体の指示と運動 11. 神経系による情報の受容と処理 12. 感覚器 13. 特殊感覚 14. 中枢神経の構造と機能 15. 脳の高次機能 16. 外部環境からの防御 17. 生殖・発生と老化としくみ 				

科目名	生化学・分子遺伝学				
開講時期	1年次前期	単位数	1	時間数	30
講師	加茂 政晴 帖佐 直幸	実務経験とその関連資格			
一般目標	生命活動を支える体液の生理的意義や代謝サイクルについて学び、生命活動システムについて学ぶ。				
成績評価	単位認定試験の成績で総合評価する。			授業の方法	講義
教科書	わかりやすい生化学 (ヌーヴェル)				
教科内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 細胞・生命成分と体液 2. タンパク質 3. 酵素 4. 消化・吸収 5. 糖質代謝 6. 脂質代謝 7. アミノ酸代謝 8. 核酸の役割 9. ホルモン 10. ビタミン 11. 免疫 12. 内部環境の恒常性 13. 血液 14. 尿・運動系・消化器系 				

科目名	臨床栄養学				
開講時期	1年次前期	単位数	1	時間数	32
講師	赤澤 典子	実務経験とその関連資格			
一般目標	対象者の健康維持・増進のために、食に関する正しい知識をもつことは必要不可欠である。対象者の健康段階に応じて、応用していけるように栄養学について基礎的知識を学ぶ。				
成績評価	単位認定試験の成績で総合評価する。			授業の方法	講義
教科書	人体の構造と機能 (3) 栄養学 (医学書院)				
教科内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 食生活と栄養と意義 栄養ケアにおける看護の役割 2. 人体の構造と栄養素 主としてエネルギー源になる栄養素 3. 脂質の種類と生理作用 4. 身体を作る栄養素 タンパク質 5. 主なミネラルの生理作用と欠乏症 6. 主なミネラルの生理作用と欠乏症 水の生理作用 7. 栄養素の消化・吸収・代謝 8. 身体のエネルギー生成と消費 食育 9. 病人食の特徴と種類 栄養食事療法 10. 栄養食事療法 消化器系疾患 11. 栄養食事療法 腎・泌尿器系疾患 12. 栄養食事療法 栄養代謝系疾患 (糖尿病) 13. 栄養食事療法 栄養代謝系疾患 (高脂血症・抗尿酸血症) 14. 栄養食事療法 血液疾患 (貧血) 15. 栄養食事療法 精神・神経系疾患、術前術後の栄養管理、 妊産婦・小児・高齢者の栄養と食事 				

科目名	臨床薬理学				
開講時期	1年次前期	単位数	1	時間数	30
講師	近藤 ゆき子 手塚 優 宮手 義和	実務経験とその関連資格		医師 薬剤師 薬剤師	
一般目標	治療法の一つである薬物療法の基礎となる薬物の体内動態を各臓器との関連で理解するとともに、薬物の有用性と有毒性について学ぶ。				
成績評価	単位認定試験の成績で総合評価する。		授業の方法		講義
教科書	疾病の成り立ちと回復の促進 (3) 薬理学 (医学書院)				
教科内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 薬物学の基礎知識 薬理作用と作用機序、薬物動態 薬効 薬理作用と副作用 薬と法律 2. 自律神経系の作用する薬物 3. 全身麻酔薬、局所麻酔薬 4. 睡眠薬 5. 抗不安薬 抗てんかん薬 6. 統合失調治療薬 抗うつ薬 7. 抗パーキンソン薬 8. 内分泌代謝疾患治療薬 9. 循環器疾患治療薬 血液疾患治療薬 10. 免疫疾患治療薬 11. 抗炎症薬 12. 消化器疾患治療薬 13. 泌尿器疾患治療薬 14. 感染症治療薬 15. 呼吸器疾患治療薬 16. 抗悪性腫瘍治療薬 17. 漢方薬 18. 看護職と薬剤 医薬品の血中濃度測定の意義 添付文書の意義 麻薬・向精神薬の取り扱い 医療安全 過去の医療事故事例に学ぶ 間違えやすい事例の検討 ハイリスク薬・注射薬 薬物に感染する計算問題 輸液ポンプと輸液セット 				

科目名	薬理学Ⅱ				
開講時期	2年次前期	単位数	1	時間数	16
講 師	宮手 義和	実務経験とその関連資格		薬剤師	
一般目標	薬物療法における看護師の役割の重要性を念頭に、演習を通して薬物を取り扱う際の基礎となる知識を学ぶ。				
成績評価	単位認定試験の成績で総合評価する。			授業の方法	講 義
教科書	疾病の成り立ちと回復の促進 (3) 薬理学 (医学書院)・今日の治療薬 (南江堂)				
教科内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 口頭指示の内奥確認 2. 薬のラベルの読み方 3. 薬の単位薬剤成分量の読み方 4. 計算問題 5. 臨床で間違えやすい薬剤についての理解 6. インシュリン製剤と単位の理解 7. カリウム製剤の使用時の確認事項 8. 強心・昇圧剤使用時の確認事項 9. 点滴の皮下漏れに伴う組織障害を起こす薬剤 10. 内服薬処方箋の見方と理解 11. 類似薬剤とその作用 12. 外用薬 (主に座薬) の種類とその作用 				

科目名	臨床微生物学				
開講時期	1年次前期	単位数	1	時間数	30
講 師	小田切 崇	実務経験とその関連資格			
一般目標	健康な生理機能を脅かす感染やそれを防御する免疫機能などを理解し、健康から疾病に至るプロセスについて学ぶ。				
成績評価	単位認定試験の成績で総合評価する。			授業の方法	講 義
教科書	疾病の成り立ちと回復の促進（4）微生物学（医学書院）				
教科内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療者（看護師）が微生物学を学ぶ理由 2. 感染様式と感染経路 3. 自然免疫と獲得免疫 4. アレルギー 5. ワクチン 6. 滅菌と消毒 7. 感染症法 感染症の検査と診断・治療 8. 薬剤耐性 9. PK-PD理論 10. 細菌感染症 グラム陰性球菌・桿菌 マイコプラズマ リケッチア クラミジア 11. ウイルス感染症 DNAウイルス RNAウイルス プリオン 12. 真菌感染症 13. 寄生虫感染症 				

科目名	病理学 I (総論)				
開講時期	1年次後期	単位数	1	時間数	30
講師	杉本 亮	実務経験とその関連資格		医師	
一般目標	疾病の誘因と回復力、個体差と個人の反応、細胞・組織に生じる「変化や異常状態」に影響する固体の条件に学ぶ。				
成績評価	単位認定試験の成績で総合評価する。			授業の方法	講義
教科書	カラーで学べる病理学 (ヌーヴェル)				
教科内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 退行性病変 2. 循環障害 3. 先天異常 4. 進行性病変 5. 炎症 6. 腫瘍 7. 病因論 (内因、外因) 8. 心臓疾患の病理 9. 血管系疾患の病理 10. 血液・骨髄疾患の病理 11. 胸腺・リンパ腺疾患の病理 12. 鼻腔・咽頭・気管の疾患の病理 13. 肺・胸腔疾患の病理 14. 口腔・食道・胃の疾患の病理 15. 大腸・小腸疾患の病理 				

科目名	病理学Ⅱ（消化器系・内分泌系・代謝系）				
開講時期	1年次後期	単位数	1	時間数	32
講師	柿坂 啓介 加藤 章信 小田 知靖	実務経験とその関連資格		医師 医師 医師	
一般目標	消化機能の低下・障害、栄養代謝機能の低下・障害、内分泌機能の低下・障害などによる疾病の特徴や病態生理、治療について学ぶ。さらに、患者が抱えているさまざまな身体・心理・社会的問題を通し患者理解を深め、回復に向けて生活を調整する方策について学ぶ。				
成績評価	単位認定試験の成績で総合評価する。		授業の方法		講義
教科書	成人看護学（5）消化器・成人看護学（6）内分泌・代謝（医学書院）				
教科内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 消化管の構造と機能 2. 消化器疾患に見られる基礎的徴候 3. 消化器疾患の検査 4. 食道から胃に発生する疾患 5. 十二指腸から肝臓に発生する疾患 6. 小腸から大腸に発生する疾患 7. 内分泌・代謝器官の構造と機能 <ol style="list-style-type: none"> 1) 内分泌器官の構造と機能 2) 内分泌器官とホルモン機能 3) 代謝の概要と機能 8. 内分泌代謝疾患の検査 <ol style="list-style-type: none"> 1) 内分泌疾患の検査 2) 代謝疾患の検査 9. 内分泌代謝疾患の理解 <ol style="list-style-type: none"> 1) 内分泌疾患 <ol style="list-style-type: none"> ①視床下部－下垂体前葉系疾患 ②視床下部－下垂体後葉系疾患 ③甲状腺疾患 ④副甲状腺疾患 ⑤副腎疾患 ⑥性腺疾患 ⑦消化管ホルモン疾患 2) 代謝疾患 <ol style="list-style-type: none"> ①糖尿病 ②高脂血症 ③肥満症 ④尿酸代謝障害 				

科目名	病理学Ⅲ（循環器系・血液系・脳神経系）				
開講時期	1年次後期	単位数	1	時間数	32
講師	内山 聡之 中島 悟史 藤原 俊朗	実務経験とその関連資格		医師 医師	
一般目標	血液疾患・循環器・脳神経疾患の特徴や病態生理・治療について学ぶ。さらに、患者が抱えている様々な身体・心理・社会的問題を通して患者理解を深め、回復に向けて生活を調整する方策について学ぶ。				
成績評価	単位認定試験の成績で総合評価する。			授業の方法	講義
教科書	成人看護学（3）循環器 ・ 成人看護学（4）血液・造血器 （医学書院）				
教科内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 循環器の構造と機能 2. 循環器疾患の検査と治療・処置 3. 虚血性心疾患 4. 心不全と血圧異常 5. 高血圧 6. 不整脈と弁膜症 7. 心筋疾患の分類、診断、治療 8. 先天性心疾患の分類、診断、治療 9. 動脈疾患の診断、治療 10. 静脈疾患の診断、治療 11. 血液病学の診断、治療 12. 赤血球系の疾患・白血球系の疾患・リンパ系の疾患の診断、治療 13. 脳・神経系の構造と機能 14. 脳・神経系の症状と病態生理 15. 脳・神経系の疾患（病態生理・検査・治療） 				

科目名	病理学Ⅳ（呼吸器系・アレルギー系・膠原病・口腔系）				
開講時期	1年次後期	単位数	1	時間数	30
講師	長島 広相 内海 裕 佐々木 大輔	実務経験とその関連資格		医師 医師 歯科医師	
一般目標	呼吸器・アレルギー・膠原病・口腔疾患の特徴や病態生理・治療について学ぶ。さらに、患者が抱えているさまざまな身体・心理・社会問題を通して患者理解を求め、回復に向けて生活を調整する方策について学ぶ。				
成績評価	単位認定試験の成績で総合評価する。		授業の方法	講義	
教科書	成人看護学（2）呼吸器、（11）アレ・膠原・感染症、（15）歯・口腔（医学書院）				
教科内容	<p>1. 呼吸機能の障害</p> <p>1) 主な障害の病態生理 感染による気道・肺の炎症（肺炎、気管支炎、インフルエンザ） 悪性腫瘍（肺がん）、呼吸機能の障害による循環機能への影響（肺性心）、急性・慢性の呼吸不全（気管支拡張症、肺気腫、肺塞栓症、気胸）その他（気管支喘息、呼吸窮迫症候群）</p> <p>2) 主な症状 呼吸困難、チアノーゼ、喀血、咳・痰、血痰</p> <p>3) 主な検査 気管支鏡、呼吸機能検査、血液検査、痰塗沫・培養</p> <p>4) 主な治療 酸素療法、肺理学療法、手術療法、薬物療法、化学療法 放射線療法</p> <p>2. アレルギー・自己免疫疾患および類縁疾患</p> <p>1) 主な障害の病態生理（喘息、アレルギー） アレルギー疾患、自己免疫疾患（SLE、関節リウマチ）、臓器移植</p> <p>2) 主な症状 痛み、発熱、皮疹、臓器症状</p> <p>3) 疾病を診断する主な検査 血液検査、皮膚反応、画像、組織</p> <p>4) 主な治療 減感作療法、薬物療法</p> <p>3. 歯・口腔系の障害</p> <p>1) 歯・口腔の構造と機能</p> <p>2) 症状と病態生理</p> <p>3) 検査と治療・処置</p> <p>4) 疾患の理解</p>				

科目名	病理学Ⅴ（腎泌尿器系・女性生殖器系）				
開講時期	1年次後期	単位数	1	時間数	32
講師	兼平 貢 千葉 洋介	実務経験とその関連資格		医師 医師	
一般目標	泌尿器疾患・女性生殖器疾患の特徴や病態生理・治療について学ぶ。さらに、患者が抱えているさまざまな身体・心理・社会問題を通して患者理解を求め、回復に向けて生活を調整する方策について学ぶ。				
成績評価	単位認定試験の成績で総合評価する。		授業の方法		講義
教科書	成人看護学（8）腎・泌尿器、成人看護学（9）女性生殖器（医学書院）				
教科内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 腎・泌尿器の解剖 <ol style="list-style-type: none"> 1) 男性生殖器のしくみと働きとそれらに関わる疾患 2. 症状と病態生理 <ol style="list-style-type: none"> 1) 無尿・乏尿、血尿、蛋白尿、頻尿、尿失禁、浮腫 2) 疼痛とその病態生理 3) 腫脹、腫瘤 3. 検査と治療 <ol style="list-style-type: none"> 1) 診察 2) 検査（検尿、腎機能検査、CTとMRIの違い、生検） 4. 腎臓の働きとその構造 <ol style="list-style-type: none"> 1) ネフロン 2) 急性腎不全の種類とその治療 3) 慢性腎不全の種類とその治療 5. 尿路感染症とその治療 6. 前立腺肥大症とその治療 7. 腎・泌尿器系の悪性腫瘍とその治療 8. 女性生殖器の構造と機能 9. 症状とその病態生理 <p style="margin-left: 2em;">ショック、出血、帯下、発熱、下腹部膨満、腫瘤感、排尿障害、不定愁訴</p> 10. 検査と治療 <p style="margin-left: 2em;">診察、検査、治療、処置</p> 11. 疾患の理解 <ol style="list-style-type: none"> 1) 外陰の疾患 2) 膣の疾患 3) 子宮の疾患 4) 卵管・卵巣の疾患 5) 不妊症 				

科目名	病理学VI (眼科系・耳鼻咽喉系・皮膚科系)				
開講時期	1年次後期	単位数	1	時間数	30
講師	石川 陽平 土田 宏大 渡辺 彩乃	実務経験とその関連資格		医師 医師 医師	
一般目標	感覚器疾患の特徴や病態生理・治療について学ぶ。さらに、患者が抱えているさまざまな身体・心理・社会的問題を通して患者理解を深め、回復に向けて生活を調整する方策について学ぶ。				
成績評価	単位認定試験の成績で総合評価する。		授業の方法	講義	
教科書	成人看護学 (13) 眼、成人看護学 (14) 耳鼻咽喉、成人看護学 (12)				
教科内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 眼の構造と機能 <ol style="list-style-type: none"> 1) 眼球 2) 視神経・視路 3) 眼球付属器 2. 症状と病態生理 <ol style="list-style-type: none"> 1) 視機能に関連した症状 (視力障害、色覚異常、飛蚊症、変視症など) 2) 視機能に関連しない症状 (充血、羞明、眼痛など) 3. 検査と治療 <ol style="list-style-type: none"> 1) 診察と診断の流れ 2) 検査 (視力検査、屈折検査、眼圧検査、視野検査、超音波検査など) 3) 治療 (点眼法、洗眼法、光凝固、冷凍凝固など) 4. 疾患の理解 <ol style="list-style-type: none"> 1) 機能の障害 (屈折の異常、調節の異常など) 2) 部位別の疾患 (眼瞼の疾患、結膜の疾患、角膜の疾患など) 3) 外傷 4) 全身疾患との関連 5. 聴嗅覚機能の障害の検査と疾患の理解・治療 外耳疾患、中耳疾患、内耳疾患、鼻副鼻腔疾患、咽頭疾患 喉頭疾患 6. 皮膚の構造・機能と障害、治療 皮膚の構造と機能、主な症状、検査、治療 				

科目名	病理学Ⅶ（運動器系）				
開講時期	1年次後期	単位数	1	時間数	16
講師	菅原 敦 丸山 盛貴 和田 俊太郎 及川 龍之介	実務経験とその関連資格		医師 医師 医師 医師	
一般目標	運動器疾患の特徴や病態生理・治療について学ぶ。さらに、患者が抱えているさまざまな身体・心理・社会問題を通して患者理解を深め、回復に向けて生活を調整する方策について学ぶ。				
成績評価	単位認定試験の成績で総合評価する。		授業の方法		講義
教科書	病態・治療論（9）運動器疾患（南江堂）				
教科内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 運動器の構造と機能 骨・関節、神経と筋肉、腱と靭帯 2. 症状と病態生理 疼痛、形態異常、関節運動の異常、神経の異常、歩行の異常 3. 骨折 原因、分類、治癒過程（変形、偽関節）、合併症、開放骨折、骨粗鬆症、大腿骨頸部骨折、橈骨遠位端骨折、上腕骨顆上骨折、下顎骨骨折、牽引療法 4. 脊椎・脊髓腫瘍・末梢神経損傷 腰部椎間板ヘルニア、狭窄症、各神経麻痺 5. 変形性関節症、関節リウマチ 6. 腫瘍、痛風 7. 治療 保存療法（固定、整復、牽引、穿刺、理学、作業、薬物、装具） 手術療法（骨接合、人口関節、神経縫合、脊椎手術、術後合併症） 				

科目名	病理学Ⅷ (消化器・呼吸器系外科)				
開講時期	1年次後期	単位数	1	時間数	30
講師	八重樫 瑞典 高清水 清治	実務経験とその関連資格		医師 医師	
一般目標	外科的治療を必要とする疾患の特徴や病態生理・治療について学ぶ。さらに、患者が抱えているさまざまな身体・心理・社会問題を通して患者理解を深め、回復に向けて生活を調整する方策について学ぶ。				
成績評価	単位認定試験の成績で総合評価する。			授業の方法	講義
教科書	別巻 臨床外科看護各論 (医学書院)				
教科内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 外科的治療法の特徴と手術適応 2. 外科的治療を受ける患者の特徴と医療者の役割 3. 頭部および頸部の疾患とその治療 4. 肺および胸部の疾患とその治療 5. 心臓および脈管系の疾患とその治療 6. 消化器および腹部の疾患とその治療 7. 脳および神経の疾患とその治療 8. 小児の外科的治療を必要とする疾患とその治療 				

科目名	看護学的視点による疾病理解				
開講時期	1年次後期	単位数	1	時間数	30
講師	本校教員 本木和子 " 嶋田 桂子	実務経験とその関連資格		看護師 看護師	
一般目標	1. 疾病が対象に及ぼす影響について理解することができる。 2. 検査・治療が対象に及ぼす影響について理解することができる。 3. 治療によってもたらされる変化を予測することができる				
成績評価	授業態度 グループワークの参加度 小テスト で評価する			授業の方法	講義
教科書	人体の構造と機能Ⅰ・Ⅱ 生化学・分子遺伝学 臨床栄養学 臨床薬理学 臨床微生物学 病理学Ⅰ～Ⅴ 基礎看護学 成人・老年・小児・母性・精神看護学				
教科内容	1. 消化器疾患が対象に及ぼす影響 胃の悪性腫瘍 病態生理（解剖生理と病理学の統合など） 症状（出現の理由など） 検査（治療方針の検討など） 治療（効果の判定と予後など） 2. 循環器系疾患が対象に及ぼす影響 心筋梗塞 病態生理（解剖生理を病理学の統合など） 症状（出現の理由など） 検査（治療方針の検討など） 治療（効果の判定と予後など） 3. 呼吸器疾患が対象に及ぼす影響 気管支喘息 病態生理（解剖生理を病理学の統合など） 症状（出現の理由など） 検査（治療方針の検討など） 治療（効果の判定と予後など）				

科目名	公衆衛生学				
開講時期	2年次後期	単位数	2	時間数	30
講 師	下田 陽樹	実務経験とその関連資格			
一般目標	人間の健康は環境や生活習慣と深く関わっている。集団、個人に関わらず、健康水準を上げるための保健活動の基礎を学ぶ。				
成績評価	単位認定試験の成績で総合評価する。		授業の方法	講 義	
教科書	よくわかる専門基礎講座 公衆衛生 (金原出版)				
教科内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生とは <ol style="list-style-type: none"> 1) 健康の概念 2) 健康の定義 3) 一次～三次予防 4) ヘルスプロモーション 2. 生活の場と健康 <ol style="list-style-type: none"> 1) 都市 2) 農村・漁業 3) へき地 3. 世界保健機関の機能 4. 地域保健医療従事者の役割 5. 地域における保健医療福祉の計画的推進 6. 統計資料の種類 7. 健康に関する指標 <ul style="list-style-type: none"> 人口の動向、人口の動態、健康状態と受療状況 8. 疫学の定義、調査の手順、方法 <ul style="list-style-type: none"> 健康被害と母集団、疫学的因果関係の推移、臨床疫学とエビデンス 9. 環境と健康 10. 衣食住と健康 11. 食品保健・環境保健と健康 <ul style="list-style-type: none"> 食品安全確保対策、食品衛生管理制度など 12. 地球環境問題 <ul style="list-style-type: none"> 地球温暖化、オゾン層の破壊、酸性雨 13. ごみ・廃棄物 <ul style="list-style-type: none"> 一般廃棄物と産業廃棄物、市町村の責任、生活排水処理 14. 住環境 (バリアフリー、シックハウス症候群) 15. 水・空気・土壌 (水の安全性、大気汚染、ダイオキシン) 16. 地域保健 <ul style="list-style-type: none"> 母子、成人、高齢者、精神、災害、難病、感染症 17. 学校保健 18. 産業保健、労働と健康 19. 世界の保険と健康問題 20. 国際保健の課題 				

科目名	社会福祉学				
開講時期	2年次前期	単位数	2	時間数	45
講師	黒澤美甫 後藤涼太 四役有香 熊谷雅順	実務経験とその関連資格		社会福祉士 社会福祉士 社会福祉士 社会福祉士	
一般目標	包括医療の考え方の中で、対象者の生活問題を取り上げ解決へ導くためには、社会保障の制度を理解する必要がある。また、諸外国の福祉と比較することで、日本の社会福祉課題を知り、望ましい社会をめざす一員となるための知識を学ぶ。				
成績評価	単位認定試験の成績で総合評価する。			授業の方法	講義
教科書	健康支援と社会保障制度 (3) 社会福祉 (医学書院)				
教科内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉の基本的性格を理解する 社会福祉の意味、類似している用語、社会福祉の定義、社会福祉構造、看護との関連 2. 社会福祉の形成と現代 社会福祉の歴史 3. 生活問題の展開と社会福祉の基本的構造 4. 社会保障制度と社会福祉制度 <ol style="list-style-type: none"> 1) 社会保障制度の詳細、医療制度改革の視点、年金保険制度の理解、社会保険制度、介護保険法 2) 社会福祉の法的制度、社会福祉の組織と管理 5. 老人福祉 6. 社会福祉の分野とサービス 老人福祉の現状と法制度の理解 諸外国の福祉の現状 7. 障害者福祉 8. 精神保健および精神障害者福祉に関する法律 9. 児童福祉法 10. 生活保護法 11. ソーシャルワーク実践 12. 医療サービスにおける責任と共有化 				

科目名	関係法規				
開講時期	3年次後期	単位数	1	時間数	15
講師	本校副校長 松本 知子	実務経験とその関連資格		看護師	
一般目標	看護をはじめ医療という仕事は、人間の生命に直接関与する。そこに携わる人々の資格や業務内容は法律で厳格に規定されている。看護に携わる者が、国民の健康を守り、与えられた職責を正しく遂行するために看護関係法令を学ぶ。				
成績評価	単位認定試験の成績で総合評価する。			授業の方法	講義
教科書	健康支援と社会保障制度（4）関係法規（医学書院）				
教科内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 憲法 2. 法の概念 3. 衛生法規の分類 <ol style="list-style-type: none"> 1) 医事法 2) 薬事法 3) 保健衛生法 4) 予防衛生法 5) 環境衛生法 4. 医師法 <ul style="list-style-type: none"> 医療法 5. 看護法 <ul style="list-style-type: none"> 保健師助産師看護師法 目的、定義、試験、受験手続、免許、業務 6. 他職種の法律 <ul style="list-style-type: none"> 診療放射線技師法、臨床検査技師法、理学療法士及び作業療法士法、歯科医師法など 7. 社会保障法 <ol style="list-style-type: none"> 1) 健康保険法 2) 老人保健法 3) 介護保険法 4) 障害者自立支援法など 8. その他の関係法規 <ul style="list-style-type: none"> 労働基準法 9. 医療過誤と関係法規 				

科目名	保健医療福祉論				
開講時期	3年次後期	単位数	1	時間数	16
講師	奥山 満秋		実務経験とその関連資格	社会福祉士	
一般目標	包括医療の中で、各年代毎にまた障害の種類や程度により、どのような制度で保護され、保障を受ける権利を有しているかを知り、看護実践に役立てられるよう学ぶ。				
成績評価	単位認定試験の成績で総合評価する。			授業の方法	講義
教科書	総合医療論 (医学書院)				
教科内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療対策の動向と方向 <ol style="list-style-type: none"> 1) 施設内医療と施設外医療 2) 入院期間短縮化に伴う在宅医療のあり方 3) 医療保険制度 4) 老人医療費、公費医療、国民医療費 5) 医療保険と他の制度の関連 2. 保健・医療・福祉の連携、統合の必要性 医療職と福祉職の協働 (守備範囲と重なり) 3. 現在の保健・医療・福祉の問題点 4. 障害の種類や程度と保障の内容 				

科目名	看護学概論				
開講時期	1年次前期	単位数	1	時間数	30
講師	本校副校長 松本 知子		実務経験とその関連資格		看護師
一般目標	看護とは何かを理解し、医療の中での看護の果たす役割について学ぶ。また、看護の対象である人間とはどのような存在なのかをとらえ、対象者に合った看護を提供するための基盤となる知識を学ぶ。				
成績評価	単位認定試験の成績で総合評価する。			授業の方法	講義
教科書	基礎看護学1 看護学概論（医学書院）、看護の基本となるもの（日本看護協会）ほか				
教科内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の概念 2. 看護の対象 3. 健康の概念 4. 看護活動 5. 看護の専門性と職業倫理 6. 看護管理 				

科目名	看護学概論Ⅱ（看護倫理）		
開講時期	2年次前期	単位数 1	時間数 16
講師	藤原克恵	実務経験とその関連資格	看護師
一般目標	看護の対象者の人権を守り、倫理的配慮に基づいた看護を提供するための、基礎となる知識を学ぶ。		
成績評価	単位認定試験の成績で総合評価する。	授業の方法	講義
教科書	基礎看護学1 看護学概論（医学書院）、よくわかる看護師の倫理綱領（照林社）ほか		
教科内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の中の倫理 <ol style="list-style-type: none"> 1) 倫理 2)医療倫理 3)看護倫理 2. ケアに必要な看護師の倫理 <ol style="list-style-type: none"> 1) 患者の権利 2) 看護師の責任 3) 看護師の倫理綱領 4) 看護ケアにおけるインフォームドコンセント 3. 患者中心の看護倫理を実践していくために <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療現場における看護倫理の問題点 2) 看護業務で直面するジレンマ 3) 倫理問題における看護師の役割 4. 看護部門で取り組む倫理的課題 <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護倫理実践システムの構築 2) 倫理的意思決定のプロセス 3) 倫理問題の解決策の決定と実施 5. 看護倫理問題解決モデル <ol style="list-style-type: none"> 1) がんケアの看護倫理 2) 難病ケアの看護倫理 3) 疼痛コントロールの看護倫理 6. 看護研究と看護倫理 <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護研究を行ううえでの倫理的問題 2) 臨床の現場における研究と倫理 3) 研究者の抱える倫理的ジレンマ 7. 出生前診断（胎児診断）における倫理 <ol style="list-style-type: none"> 1) 胎児診断の技術 2) 選択的妊娠中絶と母体保護法 3) 胎児診断の倫理的問題 4) 胎児診断の賛否 5) 胎児診断と医療者 		

科目名	コミュニケーション技術				
開講時期	1年次 前期～後期	単位数	1	時間数	30
講師	本校教員 岩間亜由美 " 川村 祐子	実務経験とその関連資格	看護師 看護師		
一般目標	1. コミュニケーションの意義と目的が理解できる 2. コミュニケーションの要素と影響を与える因子が理解できる 3. コミュニケーション技法について理解し、実践することができる				
成績評価	単位認定試験の成績で総合評価する。			授業の方法	講義
教科書	基礎看護技術 I (メヂカル社)				
教科内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニケーションとは 2. 対人関係プロセスとしての看護 <ul style="list-style-type: none"> ・看護師と患者の関係 ・対人関係の成立に不可欠な要件 3. 看護におけるケアリングのコミュニケーション <ul style="list-style-type: none"> ・他者との関係における2つの様式 ・ケアリングの概念と今日的意味 4. 看護倫理とコミュニケーション (ハッピー、オランダ、トラベル) 5. 看護のコミュニケーション <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションの要素 ・コミュニケーションの送り手と受け手との関係による分類 ・コミュニケーションのプロセス 6. コミュニケーションのプロセスに影響する要因 <ul style="list-style-type: none"> ・文化とコミュニケーション ・医療文化とコミュニケーション ・人間関係と空間 7. 医療における信頼関係とコミュニケーション <ul style="list-style-type: none"> ・信頼関係の基本であるコミュニケーション ・看護師－患者関係 8. 疾患に伴ったコミュニケーション障害のある人への対応 9. コミュニケーションの演習課題 				

科目名	フィジカルアセスメント				
開講時期	1年次 前期～後期	単位数	1	時間数	30
講 師	山田 直樹 (本校教員) 田宮 諒一 稲垣 龍太	実務経験とその関連資格	看護師 看護師 看護師		
一般目標	看護者としてのヘルスアセスメントの意義と目的を理解し、問診やフィジカルイグザミネーションから「正常なのか」「正常から逸脱した状態なのか」を判断するために必要な基礎的知識と技術の実際を学ぶ。				
成績評価	単位認定試験の成績で総合評価する。			授業の方法	講義・演習
教科書	新体系 看護学全書 基礎看護技術Ⅰ (メヂカル社) ほか				
教科内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護におけるヘルスアセスメント 2. フィジカルアセスメントの基本 <ul style="list-style-type: none"> ・体表解剖とフィジカルアセスメント ・フィジカルアセスメントにおける基本技術 (問診、視診、触診、打診、聴診) ・一般状態のアセスメント①バイタルサイン ・一般状態のアセスメント②身体計測 3. 系統的なフィジカルアセスメントの実際 <ul style="list-style-type: none"> ・体表面のアセスメント ・呼吸器系のアセスメント ・循環器系のアセスメント ・腹部・消化器系のアセスメント ・感覚系のアセスメント ・脳神経系のアセスメント ・姿勢の保持・運動系のアセスメント 4. 心理・社会的状態のアセスメント 5. セルフケア能力のアセスメント 				

科目名	共通基本技術				
開講時期	1年次 前期～後期	単位数	1	時間数	45
講 師	本校教員 岩間亜由美 " 阿部 千晶 " 水賀美 綾 " 嶋田 桂子	実務経験とその関連資格		看護師 看護師 看護師 看護師	
一般目標	看護対象である各個人にとって最適な健康状態を生み出せるよう、日常生活行動における援助に必要な看護の基礎的知識・技術を身に付ける				
成績評価	単位認定試験の成績で総合評価する。			授業の方法	講 義 ・ 演 習
教科書	基礎看護技術 I (メヂカル社) ほか				
教科内容	<p>1. 看護技術とは</p> <p>2. 感染と感染予防策の基礎知識</p> <p><環境整える技術></p> <p>1) 環境の諸要素とその調整</p> <p>2) 病室と病床の環境調整</p> <p><活動・休息の援助技術></p> <p>1) 運動機能の維持・回復のための援助</p> <p>2) 運動機能の低下した援助</p> <p><安楽確保の技術></p> <p>1) 看護における安楽の意義</p> <p>2) 安楽な体位の保持</p> <p>3) ボディメカニクスの基本</p> <p>4) 様々な安楽確保の技術</p> <p><呼吸・循環を整える援助></p> <p>1) 体温管理・保温の援助</p> <p><安全管理の技術></p> <p>1) ヒューマンエラーの特性と防止</p> <p>2) 看護事故の構造と防止の視点</p> <p>3) 看護事故防止のための視点</p> <p>4) 組織としての事故防止対策</p>				

科目名	日常生活を整える援助				
開講時期	1 年次前期	単位数	2	時間数	45
講 師	本校教員 山田 直樹 " 阿部 千秋 " 帷子 美波	実務経験とその関連資格		看護師 看護師 保健師	
一般目標	日常生活の援助技術は、対象に直接行う援助であり、対象の習慣や好みによって個別的な援助の工夫が必要となる。安全かつ安楽に、対象に配慮した姿勢や技術を習得するため、演習では患者・看護師役を体験し、患者の気持ちを理解し、対象に配慮できるようになることを目指す。				
成績評価	単位認定試験の成績で総合評価する。			授業の方法	講 義
教科書	基礎看護技術Ⅱ (メヂカル社)				
教科内容	<p><食生活と栄養摂取の援助技術></p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 食事・栄養摂取の意義としくみ 2) 食事・栄養摂取のアセスメント 3) 患者への食事援助 <p><排泄の援助技術></p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 排泄の意義としくみ 2) 排泄のアセスメント 3) 排泄の援助 4) 排便障害のある患者の援助 5) 排尿障害のある患者の援助 <p><活動・休息の援助技術></p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 活動の休息 2) 活動のアセスメント 				

科目名	身体機能の障害に応じた援助技術				
開講時期	1年次後期	単位数	1	時間数	30
講師	本校教員 阿部 千晶 " 石川 智美 " 水賀美 綾	実務経験とその関連資格		看護師 看護師 看護師	
一般目標	身体機能の障害に応じた援助技術を安全で確実に実施できる。また、患者薬をや意見することで患者への配慮の具体的な方法を考えることができる。				
成績評価	単位認定試験の成績で総合評価する。			授業の方法	講義
教科書	基礎看護技術Ⅱ (メヂカル社)				
教科内容	<p><感染予防の技術></p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 感染予防における看護師の責務と役割 2) 感染源への対策 3) 感染経路への対策 4) 人体の防護機能の増強について <p><創傷管理></p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 創傷管理の基礎知識 2) 創傷の観察 3) 創傷の処置 4) 褥瘡の予防 <p><呼吸・循環を整える技術></p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 呼吸の意義とアセスメント 2) 呼吸を楽にする姿勢・呼吸法 3) 気道分泌物の排出と援助 4) 酸素吸入法 5) 胸腔ドレナージ 6) 人口呼吸療法 7) 末梢循環促進の援助 8) 医療徒手リンパドレナージ <p><排泄の援助技術></p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 排泄に関する処置 				

科目名	治療に伴う援助				
開講時期	1年次後期	単位数	1	時間数	30
講師	本校教員 野辺地 淳子 " 本木 和子		実務経験とその関連資格	助産師 看護師	
一般目標	治療・検査時に看護師に求められる役割を考え、患者が安全で確実な治療・検査を受けるために基本的な知識・技術・態度を修得する。				
成績評価	単位認定試験の成績で総合評価する。			授業の方法	講義
教科書	基礎看護学技術Ⅱ（メヂカルフレンド社）ほか				
教科内容	<p><与薬・輸血の技術></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 与薬に関する基礎知識 2. 経口与薬法 3. 外用薬の皮膚・粘膜摘要 4. 注射法 5. 輸血療法 <p><検査に伴う援助></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 検査に伴う看護の役割 2. 排泄物の検査 3. 体液・組織の検査 4. 生体検査 5. 洗浄（胃洗浄、膀胱洗浄） 				

科目名	臨床看護総論				
開講時期	1年次前期	単位数	1	時間数	30
講師	本校教員 本木 和子 " 嶋田 桂子	実務経験とその関連資格		看護師 看護師	
一般目標	対象を全人的にとらえ、さまざまな健康の段階にある対象が、快適な日常生活を過ごすために必要な技術を習得する。				
成績評価	単位認定試験（実技試験）の成績で総合評価する。			授業の方法	講義
教科書	新体系看護学全書,基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ（メジカルフレンド社）ほか				
教科内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床看護総論の位置づけ 2. 健康上のニーズを持つ対象者と家族への看護 3. 健康状態の経過に基づく看護 4. 主要な症状を示す対象者への看護 5. 治療や処置を受ける対象への看護 6. 事例による看護実践の展開 7. 医療機器の原理と実際 8. 医療機器使用時の看護 9. 救急救命処置技術 				

科目名	看護過程と臨床判断				
開講時期	1年次後期	単位数	1	時間数	30
講師	本校教員 水賀美 綾 " 嶋田 桂子		実務経験とその関連資格	看護師 看護師	
一般目標	看護理論において、人間とその健康、看護の役割が述べられている。アセスメントの枠組として、ヘンダーソンの14の基本的ニーズを活用し、目的をもって情報収集し、1つひとつの項目を丁寧にみる看護の視点を養う。また、臨床判断では間近にある状況を知覚的に把握し、確定に至らなくても状況がどうあり今後どうなっていくのか予期し、臨床像を全体的に把握するための気づき力を育む。				
成績評価	単位認定試験（実技試験）の成績で総合評価する。			授業の方法	講義
教科書					
教科内容	<p><看護過程></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護過程とは 2. 看護過程の変遷 3. 看護診断 4. 看護過程の構成要素 5. 看護記録 6. 看護記録の記載基準 7. 看護記録および診療情報の取り扱い 8. 看護学生の医療情報管理 <p><臨床判断></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床判断とは 2. 臨床判断のプロセス 3. 事例をもとに考える 				

科目名	地域と暮らし				
開講時期	1年次後期	単位数	1	時間数	15
講師	本校教員 帷子 美波 " 石川 智美		実務経験とその関連資格		保健師 看護師
一般目標	地域や暮らしを深く理解することができる				
成績評価	単位認定試験の成績で総合評価する。			授業の方法	講義・演習
教科書					
教科内容	<p>生活環境とは</p> <p>生活とは</p> <p>環境とは</p> <p>看護職のケアの対象とは</p> <p>高齢者、障害者、子ども・子育て家庭、生活困窮者、外国人など</p> <p>地域を見る視点</p> <p>コミュニティ・アズ・パートナーモデル</p> <p>高齢者、障害者、子ども・子育て家庭を対象とした地区踏査からの地域特性</p>				

科目名	成人看護学概論				
開講時期	1年次前期	単位数	1	時間数	30
講師	帷子 美波 (本校教員) 佐々木ひろ子		実務経験とその関連資格		保健師 看護師
一般目標	現代に成人に生じやすい健康上の問題の予防と回復に向けて、看護師として適切な援助を提供するために必要な基本的概念を学ぶ。				
成績評価	単位認定試験の成績で総合評価する。			授業の方法	講義
教科書	成人看護学 (1) 成人看護学概論 (医学書院)				
教科内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. ライフサイクルから見た成人期 <ol style="list-style-type: none"> 1) 社会的責任 (自立) と役割 2) 精神的自立と役割 3) 家族の形成 4) 体力の低下 2. 成人期の区分 3. 成人期のライフサイクルとライフスタイル <ol style="list-style-type: none"> 1) 成人期の成長と発達 2) 生涯発達 3) 生産年齢と従属人口 4. 成人期の看護問題とその把握 <ol style="list-style-type: none"> 1) 生活評価 2) 人生観 3) 生活目標 4) 健康生活 5) 生活の調整機能と健康評価 6) 健康意識の把握 5. 青年期の特徴と健康問題 6. 壮年期の特徴と健康問題 7. 向老年期の特徴と健康問題 8. 成人保健問題の動向と関連要因 <ol style="list-style-type: none"> 1) 人口構成 2) 年齢別人口割合 3) 平均寿命 4) 死因 5) 死亡率 6) 受療率 7) 有訴率 8) 国民生活調査 9. 成人を対象とした保健政策 <ol style="list-style-type: none"> 1) 健康寿命と健康診査 2) 成人の保健に関連した各種法律 10. 成人を対象とした健康教育 <ol style="list-style-type: none"> 1) 疾患別にみた保健対策 2) 老人保健法 3) 健康づくり対策 4) 労働者の健康対策 5) 健康日本21 6) 性感染症対策 11. 生活習慣病の予防法 <ol style="list-style-type: none"> 1) 第一次予防 2) 第二次予防 3) 第三次予防 4) 健康日本21の現実と目標数 5) 生活習慣病予防における看護の役割 12. 成人保健と性 <ol style="list-style-type: none"> 1) 成人のセクシュアリティ 2) 成人の性と看護の役割 13. 労働者の健康問題 <ol style="list-style-type: none"> 1) 労働者の健康障害要因 2) 生活習慣病と業務関連要因 14. 職業と保健 <ol style="list-style-type: none"> 1) 産業保健と産業看護 2) 個人情報保護 				

科目名	成人看護学方法論Ⅰ(呼吸器・循環器・脳神経系・アレルギー・膠原病系)				
開講時期	1年次後期	単位数	1	時間数	38
講師	菅原 浩子 豊岡 沙月 平澤 聡美 瀬川 智浩		実務経験とその関連資格		看護師 看護師 看護師 看護師
一般目標	呼吸・循環・防御機構の障害を生む要因及びその障害と、放射線治療を受ける対象者の日常生活に及ぼす影響を理解し、自立に向けての支援方法を導き出し、実践するための能力を養う。				
成績評価	単位認定試験の成績で総合評価する。		授業の方法		講義
教科書	成人看護学(2)呼吸器、(3)循環器、(7)脳・神経、(11)アレ・膠原・感染症など(医学書院)				
教科内容	<p>【循環器疾患患者の看護】</p> <p>1. 症状に対する看護 2. 意識レベルとバイタルサインの観察ポイント 3. 呼吸と循環の観察ポイント 4. 水分管理のポイント 5. 検査と治療、処置 6. 疾患を持つ患者の看護 7. 手術を受ける患者の看護 8. 看護過程の展開</p> <p>【呼吸器疾患患者の看護】</p> <p>1. 症状に対する看護 2. 検査と治療 3. 疾患を持つ患者の看護 4. 看護過程の展開</p> <p>【アレルギー疾患患者の看護】</p> <p>1. 検査と治療、処置 2. 症状に対する看護 3. 疾患を持つ患者の看護</p> <p>【膠原病患者の看護】</p> <p>1. 症状と病態生理 2. 症状に対する看護、治療を受ける患者の看護</p> <p>【感染症に罹患した患者の看護】</p> <p>1. 感染症の診断と治療 2. 感染症患者の看護</p> <p>【脳神経系疾患患者の看護】</p> <p>1. 症状・障害を持つ患者の看護 2. 治療・処置を受ける患者の看護 3. 疾患をもつ患者の看護 4. 看護過程の展開</p> <p>【放射線療法を受ける患者の看護】</p> <p>1. 放射線の医療への応用 2. 放射線診断と看護 3. 核医学と看護 4. がんと放射線治療 5. 放射線治療と看護</p>				

科目名	成人看護学方法論Ⅱ (消化機能、内分泌・代謝機能に障をもつ患者の看護)				
開講時期	2年次後期	単位数	1	時間数	30
講師	細川 あずさ 大久保 敬子		実務経験とその関連資格	看護師 看護師	
一般目標	消化機能・栄養代謝機構の障害を生む要因及びその障害が、対象者の日常生活に及ぼす影響を理解し、自立に向けての支援方法を導き出し実践する能力を養う。				
成績評価	単位認定試験の成績で総合評価する。			授業の方法	講義
教科書	成人看護学 (5) 消化器、(6) 内分泌・代謝 (医学書院)				
教科内容	<p>【消化器疾患の経過と看護】</p> <ol style="list-style-type: none"> 急性期 慢性期 回復期 終末期 継続看護 <p>【症状に対する看護】</p> <ol style="list-style-type: none"> 嚥下困難 食欲不振と体重減少 おくび、胸やけ 吐き気、嘔吐 下痢・便秘 腹痛、腹部膨満 黄疸 <p>【検査を受ける患者の看護】</p> <ol style="list-style-type: none"> 胃液・十二指腸液検査 造影検査 内視鏡検査 肝生検 超音波検査 CT MRI <p>【治療・処置を受ける患者の看護】</p> <ol style="list-style-type: none"> 薬物療法 食事療法 手術療法 放射線療法 <p>【疾患を持つ患者の看護】</p> <ol style="list-style-type: none"> 食道疾患 胃ろう・空腸ろう 胃・十二指腸疾患 腸・腹膜疾患 大腸がん・直腸がん ストーマ造設術 肝臓・胆のう疾患 C型肝炎 肝がん 膵臓疾患 <p>【内分泌・代謝疾患患者の看護】</p> <ol style="list-style-type: none"> 糖尿病患者の看護 代謝性疾患患者の看護 <p>【看護過程の展開】</p>				

科目名	成人看護学方法論Ⅲ (腎・泌尿器・女性生殖器・血液造血器系)				
開講時期	1年次後期	単位数	1	時間数	30
講師	吉田 美香 田口 育美 菊池 葉月		実務経験とその関連資格		看護師 看護師 看護師
一般目標	腎・泌尿器・女性生殖器・血液造血器機能の障害を生む要因及びその障害が、対象者の日常生活に及ぼす影響を理解し、自立に向けての支援方法を導き出し、実践する能力を養う。				
成績評価	単位認定試験の成績で総合評価する。			授業の方法	講義
教科書	成人看護学 (8) 腎・泌尿器、(9) 女性生殖器、(4) 血液・造血器 (医学書院)				
教科内容	<p>【腎・泌尿器看護】</p> <ol style="list-style-type: none"> 看護を学ぶにあたって <ol style="list-style-type: none"> 医療の動向と看護 <ol style="list-style-type: none"> ①医療環境の変化と看護 ②医療技術の進歩と課題 ③腎移植の動向 患者の特徴と看護の役割 疾患の経過と看護 患者の看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 症状に対する看護 2) 検査を受ける患者の看護 3) 内科的治療を受ける患者の看護 4) 物理的治療を受ける患者の看護 5) 食事療法を受ける患者の看護 6) 疾患を持つ患者の看護 7) 透析治療を受ける患者の看護 8) 泌尿器科的治療を受ける患者の看護 <p>【女性生殖器看護】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護を学ぶにあたって 2. 臓器別疾患・機能別疾患患者の看護 3. 治療・処置を受ける患者の看護 4. 看護過程の展開 <p>【血液・造血器系看護】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護を学ぶにあたって 2. 検査・治療・処置を受ける患者の看護 3. 疾患をもつ患者の看護 4. 終末期の看護 5. 看護過程の展開 				

科目名	成人看護学方法論Ⅳ (周手術期看護・運動器系)				
開講時期	1年次後期	単位数	1	時間数	30
講師	笹川 智詞 伊藤 まどか		実務経験とその関連資格		看護師 看護師
一般目標	急激な身体浸襲により急性期にある患者が、手術療法を選択し退院するまでの過程を理解し、その中で、術前、術中、術直後における支援方法を導き出し、実践するための能力を養う。運動機能障害が患者の日常生活に及ぼす影響を理解し、自立に向けての支援方法を考え、実践するための能力を養う。				
成績評価	単位認定試験の成績で総合評価する。			授業の方法	講義
教科書	別巻 臨床外科看護総論、別巻 臨床外科看護各論 (医学書院)				
教科内容	<p>【周手術期患者の看護】</p> <ol style="list-style-type: none"> 周手術期看護の概要 <ol style="list-style-type: none"> 医療の動向と看護 <ol style="list-style-type: none"> 周手術期看護の理念 周手術期看護の専門性 安全管理 手術看護基準 手術の一連の流れ 周手術期看護の基本 <ol style="list-style-type: none"> 術前の看護 術中の看護 術後の看護 麻酔看護の基本 <ol style="list-style-type: none"> 全身麻酔 硬膜外麻酔 腰椎麻酔 局所麻酔 体位固定と看護 術前訪問・術後訪問 無菌操作と感染予防対策 手術介助 手術・麻酔の偶発症、合併症 手術看護で使用する記録 (看護記録、看護計画、承諾書) <p>【運動器疾患患者の看護】</p> <ol style="list-style-type: none"> 運動器疾患の症状と病態生理、看護 診断、検査、治療、処置を受ける患者の看護 運動器疾患に特有の経過に応じた看護 疾患をもつ患者の看護 <ol style="list-style-type: none"> 大腿骨頸部骨折 捻挫及び打撲 先天性疾患 骨・関節の炎症性疾患 骨主要及び軟部主要 脊椎疾患 神経の疾患 リウマチ性疾患 看護過程の展開 				

科目名	成人看護学方法論Ⅴ (外科系看護)				
開講時期	2年次後期	単位数	1	時間数	30
講師	佐々木 真奈美 中野 智子		実務経験とその関連資格	看護師 看護師	
一般目標	急激な身体浸襲により急性期にある患者が、手術療法を選択し退院するまでの過程を理解し、その中で、術前・術後における支援方法を導き出し、実践するための能力を養う。				
成績評価	単位認定試験の成績で総合評価する。			授業の方法	講義
教科書	別巻 臨床外科看護総論、別巻臨床外科看護各論 (医学書院)				
教科内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 頭部・頸部疾患患者の看護 2. 甲状腺・副甲状腺手術患者の看護 3. 肺・胸部疾患患者の看護 4. 胸部外傷患者の看護 5. 乳房切除術・乳房再建術患者の看護 6. 心臓・脈管系疾患患者の看護 7. 血管系疾患患者の看護 8. 消化器・腹部疾患患者の看護 9. 心臓手術患者の看護 10. 食道手術患者の看護 11. 胃手術患者の看護 12. 腸・腹膜疾患患者の看護 13. 肝がん患者の看護 14. 胆のう・胆道手術患者の看護 15. 膵臓手術患者の看護 16. 副腎摘出患者の看護 17. 脳・神経系疾患患者の看護 18. 開頭術を受ける患者の看護 19. 脳腫瘍手術を受ける患者の看護 20. 頭部外傷患者の看護 21. 集中治療を受ける患者の看護 22. 看護過程の展開 				

科目名	老年看護学概論				
開講時期	1年次後期	単位数	1	時間数	30
講師	本校教員 山田 直樹		実務経験とその関連資格	看護師	
一般目標	急速に進行する高齢社会において、老年看護の重要性と役割が増している。高齢者を生物学的・社会的な変化の中でとらえ、老いて生きる人々の生活と、それを取り巻く社会の視点で、高齢者の多様性を理解し、看護を実践するための能力を養う。				
成績評価	単位認定試験の成績で総合評価する。			授業の方法	講義
教科書	老年看護学概論/老年保健 (メジカル社)				
教科内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老いのイメージ 2. ライフステージの中の老年期の特徴と発達課題 3. 高齢者の生物学的・社会的変化 4. 高齢社会と健康管理 5. 高齢者と家族 6. 保健医療福祉と高齢社会が指すもの 7. 疾病や障害をもつ高齢者の諸問題 8. 高齢者の性・人権問題・身体拘束 9. 介護保険の概要と高齢社のQ O L 10. 高齢者にとっての死 				

科目名	老年看護学方法論Ⅰ (視聴覚機能に障害をきたした患者の看護他)				
開講時期	1年次後期	単位数	1	時間数	16
講師	中軽米 菜都美 佐々木 栄子		実務経験とその関連資格	看護師 看護師	
一般目標	加齢に伴う身体的・精神的・社会的変化を理解し、健康を障害している（主に視聴覚機能障害）対象者及び家族を含めて援助する方法を学ぶ。				
成績評価	単位認定試験の成績で総合評価する。			授業の方法	講義
教科書	成人看護学（14）耳鼻咽喉（医学書院）				
教科内容	<p>【聴覚障害患者の看護】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 聴覚障害患者の特徴 2. 聴覚障害患者の理解 3. 聴覚障害者の看護 4. 疾病をもつ患者の看護 <p>【視覚障害患者の看護】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 視覚障害の症状に対する看護 2. 診察時の看護 3. 検査を受ける患者の看護 4. 治療・処置を受ける患者の看護 5. 手術を受ける患者の看護 6. 疾患をもつ患者の看護 7. 事例による看護過程の展開 				

科目名	老年看護学方法論Ⅱ (老年期にある患者の理解)				
開講時期	1年次後期	単位数	1	時間数	15
講師	本校教員 川村 祐子	実務経験とその関連資格		看護師	
一般目標	加齢に伴う身体的・精神的・社会的変化を理解し、健康を障害している（主に視聴覚機能障害）対象者及び家族を含めて援助する方法を学ぶ。				
成績評価	単位認定試験の成績で総合評価する。			授業の方法	講義
教科書	成人看護学（14）耳鼻咽喉（医学書院）				
教科内容	<p>【聴覚障害患者の看護】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 聴覚障害患者の特徴 2. 聴覚障害患者の理解 3. 聴覚障害者の看護 4. 疾病をもつ患者の看護 <p>【視覚障害患者の看護】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 視覚障害の症状に対する看護 2. 診察時の看護 3. 検査を受ける患者の看護 4. 治療・処置を受ける患者の看護 5. 手術を受ける患者の看護 6. 疾患をもつ患者の看護 7. 事例による看護過程の展開 				

科目名	老年看護学方法論Ⅲ (疾病を持つ高齢者の看護他)				
開講時期	1年次後期	単位数	1	時間数	30
講師	井上 和子 村上 あかね		実務経験とその関連資格	看護師 看護師	
一般目標	高齢者に起こりやすい疾患を理解し、高齢者の特徴をふまえた看護を実践できる能力を養う。また、高齢者の生活機能をアセスメントし、適切な援助を導き出し、実践するための方法を学ぶ。				
成績評価	単位認定試験の成績で総合評価する。			授業の方法	講義
教科書	健康障害を持つ高齢者の看護 (メジカル社)				
教科内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 排泄のケア 2. 環境整備 3. 脱水予防 4. スキンケア 5. 褥瘡予防 6. 痛みのケア 7. 事故防止 8. 死の看取りへの援助 9. 穏やかな死を迎えるためのトータルケア 10. 入院生活への援助 11. 退院へ向けての援助 12. コミュニケーション障害への援助 13. 認知症、認知障害への援助 14. 転倒予防 15. 誤嚥、窒息の予防 16. 口腔ケア 17. 高齢者とりハビリテーション 18. 検査を受ける高齢者への援助 19. 薬物療法を受ける患者の看護 20. 手術を受ける高齢者への援助 				

科目名	小児看護学概論				
開講時期	2年次後期	単位数	1	時間数	30
講師	本校教員 川村 祐子		実務経験とその関連資格		看護師
一般目標	子どもの発達段階を理解し、変化する社会の中で子どもの基本的な人権を守り、子供と家族の置かれている状況を学ぶ。さらに、成長発達やさまざまな健康状態に応じた看護を考えるための基礎となる知識を学ぶ。				
成績評価	単位認定試験の成績で総合評価する。			授業の方法	講義
教科書	小児看護学1 小児概論・臨床総論 (医学書院)				
教科内容	<p>1. 小児看護学概論</p> <p>1) 小児看護学における4領域のとらえ方と展開</p> <p>2) 小児の区分</p> <p>3) 発達による区分</p> <p>4) 子どもの特徴</p> <p>5) 小児看護の目的と対象</p> <p>6) 小児看護と成人看護の違い</p> <p>2. 小児医療・小児看護の変遷</p> <p>3. 子どもの人権と看護</p> <p>1) 子どもと倫理 2) 児童憲章</p> <p>4. 子どもの成長発達</p> <p>1) 成長・発達の原則</p> <p>①概念 ②原則 ③影響する要因 ④発達課題</p> <p>2) 形態的成長・発達</p> <p>①形態的成長・発達 ②機能的発達 ③心理社会的発達 ④性の発達</p> <p>⑤遊び ⑥発達の評価</p> <p>5. 子どもの栄養と食生活</p> <p>1) 特徴</p> <p>2) 栄養所要量</p> <p>3) 各期の特徴 ①母乳栄養 ②人口栄養 ③離乳食</p> <p>4) 各期における食行動の発達</p> <p>6. 基本的生活習慣</p> <p>1) 基本的生活習慣とは</p> <p>2) 「しつけ」を適切に行う必要条件</p> <p>3) 睡眠・食事・排泄 (排便習慣を含む) ・清潔</p> <p>7. 小児と家族をとりまく社会</p> <p>1) 小児をめぐる法律と政策</p> <p>8. 小児と家族の諸統計</p> <p>9. 家族のアセスメント</p> <p>10. 小児のアセスメント</p>				

科目名	小児看護学方法論Ⅰ (健康障害の理解他)				
開講時期	2年次後期	単位数	1	時間数	30
講師	水間 加奈子		実務経験とその関連資格	医師	
一般目標	健康障害をもつ子どもの病態生理・治療について理解する。さらに疾患に伴い、子どもと家族が抱える問題を理解し、援助の方法を学ぶ。				
成績評価	単位認定試験の成績で総合評価する。			授業の方法	講義
教科書	小児看護学2 小児各論 (医学書院)				
教科内容	<p>1. 健康障害をもつ小児の理解</p> <p>1) 染色体異常・胎内環境により発生する先天異常</p> <p>2) 新生児の異常 ①低出生体重児 ②高ビリルビン血症 ③新生児仮死 ④超低出生体重児</p> <p>3) 代謝性疾患 ①新生児マ・スクリンガ ②先天性代謝異常 ③代謝性疾患 ④Ⅰ型糖尿病 ⑤アセトン血性嘔吐症</p> <p>4) 内分泌疾患 ①下垂体疾患 ②副腎疾患 ③甲状腺疾患 ④性腺の異常</p> <p>5) 免疫・アレルギー性疾患、膠原病 ①気管支喘息 ②食物アレルギー ③若年性リウマチ</p> <p>6) 感染症 ①麻疹 ②風疹 ③流行性耳下腺炎 ④水痘 ⑤髄膜炎 ⑥百日咳 ⑦溶血性レンサ球菌 ⑧結核 ⑨ジフテリア ⑩ポリオ</p> <p>7) 呼吸器疾患 ①かぜ症候群 ②肺炎</p> <p>8) 循環器疾患 ①ファロー四徴症 ②川崎病</p> <p>9) 消化器疾患 ①唇裂・口蓋裂 ②食道閉鎖 ③幽門狭窄 ④鎖肛 ⑤胆道閉鎖症 ⑥腸重積 ⑦急性胃腸炎</p> <p>10) 血液・造血器疾患 ①貧血 ②出血傾向 ③輸血療法 ④再生不良性貧血 ⑤血友病</p> <p>11) 悪性新生物 ①白血病 ②神経芽細胞腫 ③化学療法 ④放射線療法 ⑤手術 ⑥骨髄移植</p> <p>12) 腎・泌尿器および生殖器疾患 ①ネフローゼ症候群 ②溶血性レンサ球菌感染後急性糸球体腎炎 ③急性腎不全 ④水腎症 ⑤膀胱尿管逆流現象 ⑥尿道下裂</p> <p>13) 神経疾患 ①けいれん ②脳性まひ ③水頭症・二分脊椎 ④進行性筋ジストロフィー</p> <p>14) 精神疾患 ①不安が強く不登校になった子ども ②注意欠陥、多動性障害児</p>				

科目名	小児看護学方法論Ⅱ (小児看護総論)				
開講時期	2年次前期	単位数	1	時間数	16
講師	本校教員 川村 祐子	実務経験とその関連資格		看護師	
一般目標	健康障害をもつ子どもと、家族の看護について学ぶ。 疾病に伴い、子どもと家族が抱える健康問題と看護の役割について学ぶ。				
成績評価	単位認定試験の成績で総合評価する。			授業の方法	講義
教科書	小児看護学2 小児各論 (医学書院・写真でわかる小児看護技術 (インターメディカ))				
教科内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 疾病・障害をもつ小児と家族の看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 疾病・障害に対する子どもの反応 2) 子どもの疾病・障害に対する家族の反応 2. 健康障害をもつ小児の生活と看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 生活制限のある小児と家族の看護 2) 在宅療法を行う小児と家族の看護 3. 症状のある小児の看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 一般状態としての不機嫌・啼泣 2) 症状とアセスメント、看護 4. 検査・処置を受ける小児の看護 5. 障害のある小児と家族の看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 障害のとらえ方 2) 障害のある小児と家族の特徴 3) 障害のある小児と家族の社会的支援 6. 子どもの虐待と看護 7. 子どもの精神疾患と看護 				

科目名	小児看護学方法論Ⅲ (疾患をもつ小児の看護他)				
開講時期	2年次後期	単位数	1	時間数	32
講師	佐々木 由希子 陣場 智恵		実務経験とその関連資格	看護師 看護師	
一般目標	健康障害をもつ子どもの病態生理・治療について理解する。さらに疾患に伴い、子どもと家族が抱える問題を通して患者理解を深め、回復に向けて生活を調整する方策を学習し、実践できる能力を養う。				
成績評価	単位認定試験の成績で総合評価する。			授業の方法	講義
教科書	小児看護学1 小児概論・臨床総論、小児看護学2 小児各論（インターメディカ）				
教科内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 検査・処置を受ける小児の看護 2. 染色体異常・体内環境により発症する先天異常と看護 3. 新生児の看護 4. 代謝性疾患と看護 5. 内分泌疾患と看護 6. 事故・外傷と看護 7. 慢性期にある小児と家族の看護 8. 周手術期にある小児と家族の看護 9. 終末期の小児と家族の看護 10. 外来における小児と家族の看護 11. 小児の入院と小児・家族の看護 12. 小児の入院環境 13. 小児と家族の入学時の看護 14. 疾患をもつ小児の看護 15. 看護過程の展開 				

科目名	母性看護学概論				
開講時期	2年次後期	単位数	2	時間数	45
講師	本校教員 野辺地淳子	実務経験とその関連資格		助産師	
一般目標	女性を取り巻く社下記の変遷と現状について理解を深め、思春期・成熟期・更年期という一生を通じた健康に対する援助を学ぶ。				
成績評価	単位認定試験の成績で総合評価する。		授業の方法	講義	
教科書	母性看護学Ⅰ 概論・ライフサイクル、母性看護学Ⅱ マタニティサイクル (南江堂)				
教科内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 母性看護の主な概念 <ol style="list-style-type: none"> 1) 母性とは 2) ジェンダー 3) 家族の発達・機能 2. 母性看護と倫理 <ol style="list-style-type: none"> 1) 妊産褥婦・胎児および新生児の権利と擁護 2) 自己決定の尊重 3) プライバシーの保護 3. 母性看護と法整備 <ol style="list-style-type: none"> 1) 地域における子育て支援 2) 就労と母性 3) 母体保護法 4) 母子保健法 4. ヒトの発生と遺伝的要素 <ol style="list-style-type: none"> 1) 発生のメカニズム 2) 染色体・遺伝子 5. 性周期と生殖機能のメカニズム <ol style="list-style-type: none"> 1) 性周期とホルモン 2) 受胎のメカニズム 6. 性行動 <ol style="list-style-type: none"> 1) 性反応 2) 性感染症 7. 生殖をめぐる倫理 <ol style="list-style-type: none"> 1) 人口妊娠中絶 8. 思春期にある人々の看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 第二性徴 2) 心理的特徴 9. 更年期にある人々の看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) ホルモンの変化と閉経 2) 骨粗しょう症の予防 3) 更年期女子の看護 10. 母性の観点からみた健康の維持管理 (疾病予防) 				

科目名	母性看護学方法論Ⅰ (正常経過にある妊産褥婦の理解他)				
開講時期	2年次後期	単位数	1	時間数	32
講師	佐藤 貴紀 山本 克子		実務経験とその関連資格		医師 助産師
一般目標	新しい家族の誕生期にあり人々の、健康な生活を援助するために必要な基礎的知識と技術を学ぶ。特に正常な妊娠・出産・産褥各期の身体的・精神的変化を理解し、母子を守るための援助方法を学ぶ。				
成績評価	単位認定試験の成績で総合評価する。			授業の方法	講義
教科書	母性看護学Ⅱ マタニティサイクル(南江堂) ほか				
教科内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠期の身体的特性 <ol style="list-style-type: none"> 1) 妊娠の生理 <ol style="list-style-type: none"> ①妊娠期間 ②妊娠の成立 ③胎盤の形成 2) 胎児の発育とその理由 <ol style="list-style-type: none"> ①胎児発育 ②胎盤・羊水 ③胎児の生理 3) 母体の生理的变化 2. 妊娠と胎児のアセスメント <ol style="list-style-type: none"> 1) 妊娠経過の診断 2) 胎児の発育と健康状態の診断 3. 分娩期における看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 分娩の3要素 4. 分娩の経過 <ol style="list-style-type: none"> 1) 分娩の進行と産婦の身体的変化 2) 産痛 3) 胎児異常 4) 胎児付属物の異常 5) 分娩時の損傷 6) 胎盤娩出の異常 7) 分娩時異常出血 8) 産科処置 5. 妊婦の異常と看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 管理上の問題点 2) つわり 3) 流産 4) 子宮外妊娠 5) 切迫流産 6) 前期破水 6. 妊娠疾患 <ol style="list-style-type: none"> 1) 妊娠高血圧症候群 2) 血液型不適合妊娠 7. 偶発合併妊娠 8. 妊娠期の感染症 				

科目名	母性看護学方法論Ⅱ (妊婦褥婦の看護他)				
開講時期	2年次後期	単位数	1	時間数	30
講師	山本 克子 重野 裕美		実務経験とその関連資格		助産師 助産師
一般目標	出産後の女性の健康回復への援助、合併症を持ち妊娠・出産する女性への援助、新生児への援助を学ぶ。また、特にハイリスクな状況にある母子への援助方法を学ぶ。				
成績評価	単位認定試験の成績で総合評価する。			授業の方法	講義
教科書	母性看護学Ⅰ 概論・ライフサイクル、母性看護学Ⅱ マタニティサイクル (南江堂)				
教科内容	<p>1. 産褥期における看護</p> <p>1) 産褥の経過 ①産褥とは ②悪露の変化 ③乳汁分泌</p> <p>2) 産褥の観察と援助 ①進行性変化、退行性変化、回復状態 ②一般状態 ③保育状態 ④心理的变化</p> <p>3) 母乳の利点と欠点 ①利点 ②問題点</p> <p>2. 産褥の異常と看護</p> <p>1) 子宮復古不全 ①原因 ②症状 ③治療 ④看護</p> <p>2) 産褥熱 ①原因 ②起炎菌 ③治療 ④看護</p> <p>3) 乳房トラブル ①乳汁のうっ滞と乳管の閉塞の症状と看護 ②乳腺炎の症状と看護</p> <p>4) 母子分離時の看護</p> <p>5) 精神障害合併妊婦・産褥と家族への看護 ①マタニティブルーズ ②産後うつ病</p> <p>3. ハイリスク妊婦の看護</p> <p>1) 高年妊婦の看護 ①考えられるリスク ②看護</p> <p>2) 若年妊婦の看護 ①考えられるリスク ②看護</p> <p>3) 肥満・過剰体重増加妊婦の看護 ①考えられるリスク ②看護</p> <p>4) 合併症を有する妊婦の看護 ①心疾患 ②糖尿病 ③子宮筋腫</p> <p>5) 妊娠高血圧症候群妊婦の看護 ①観察 ②看護</p> <p>6) 切迫流産・早産妊婦の看護 ①流産・早産の定義 ②観察 ③看護</p> <p>7) 多胎妊婦の看護 ①観察 ②看護</p> <p>4. 異常のある妊婦の看護</p> <p>1) 破水が生じた産婦の看護 ①観察点 ②看護</p> <p>2) 分娩遷延時の看護 ①観察点 ②看護</p> <p>3) 急速遂娩の看護</p> <p>4) 弛緩出血時の看護</p> <p>5) 会陰裂傷、切開を生じた産婦の看護</p> <p>5. 新生時期における看護</p> <p>1) 出生直後の看護 2) 出生後から退院までの看護</p> <p>6. 新生児の異常と看護</p> <p>1) 新生児仮死 2) 分娩外傷 3) 低出生体重児</p> <p>4) 高ビリルビン血症</p> <p>7. 事例展開「産褥期の看護」</p>				

科目名	精神看護学概論				
開講時期	2年次後期	単位数	1	時間数	30
講師	嶋田 桂子（本校教員） 千葉まゆみ	実務経験とその関連資格		看護師 看護師	
一般目標	ライフサイクルにおける心の発達と健康について学ぶとともに、精神に障害をもつ対象者を理解し、人間関係を媒介にしながら、意欲回復や自立を支援できるような能力を養う。				
成績評価	単位認定試験の成績で総合評価する。			授業の方法	講義
教科書	精神看護学概論/精神保健（メジカル社）				
教科内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心の健康 <ol style="list-style-type: none"> 1) 心の健康とその考え方 2) 心の健康の維持 2. ライフサイクルと心の健康 <ol style="list-style-type: none"> 1) 人間各期の発達課題 2) 心の発達 3) 人間関係と心のはたらき 3. 環境と心のはたらき <ol style="list-style-type: none"> 1) 暮らしの場と心の健康 2) 教育の場と心の健康 3) 職場と心の健康 4) 地域社会とこころの健康 4. 危機状況と心のはたらき <ol style="list-style-type: none"> 1) 危機状況とは 2) 発達段階での危機状況と危機介入 3) 医療現場の危機状況 5. 精神保健活動の展開 <ol style="list-style-type: none"> 1) 精神保健の変遷 2) 精神保健福祉行政 6. 看護における感性 <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護師に求められる能力 7. カウンセリング技法 8. 教育・指導 9. コンサルテーション 10. 危機状況への介入 <ol style="list-style-type: none"> 1) 心の危機とサポート技術 2) 手段的支援ネットワーク 3) 情緒的支援ネットワーク 11. 精神の健康増進のための援助方法 <ol style="list-style-type: none"> 1) セルフケア 2) セルフケアアプローチ 12. 乳幼児期におけるスキンシップの重要性 <ol style="list-style-type: none"> 1) 信頼関係の基礎としてのスキンシップ 2) 親子関係の見直し 13. しつけ 14. 自我の確立 15. 対人関係成立への援助 <ol style="list-style-type: none"> 1) 人間関係の重要性 2) 人間関係から対人関係へ 3) 対人関係成立のための展開方法 16. 社会で生活する人の精神の健康増進の援助 <ol style="list-style-type: none"> 1) 危機介入と社会資源 2) 地域精神保健ネットワークづくり 3) 地域精神保健の中での看護の役割 				

科目名	精神看護学方法論Ⅰ (精神障害とのかかわり方)				
開講時期	2年次後期	単位数	1	時間数	16
講師	高橋 昇	実務経験とその関連資格		臨床心理士	
一般目標	患者のこころの健康と、患者を支える家族のこころの健康について学び、精神的・心理的問題を抱え、援助を求めるに人に対する心理的コミュニケーションを通して援助し、建設的な改善を図ろうとするカウンセリングについて学ぶ。				
成績評価	単位認定試験の成績で総合評価する。			授業の方法	講義
教科書	精神看護学1 精神保健学 (ヌーヴェル)				
教科内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「からだ」と「心」および人間関係 2. 精神障害とは 3. 患者の心の健康 4. 患者を支える家族の心の健康 5. 心の問題への対応 <ol style="list-style-type: none"> 1) カウンセリング <ol style="list-style-type: none"> ①カウンセリング関係 ②カウンセリング場面 ③治療者の3条件 ④カウンセリングの目指すもの 				

科目名	精神看護学方法論Ⅱ (精神障害者の理解他)				
開講時期	2年次後期	単位数	1	時間数	30
講師	宮野 真一 小原 広羽		実務経験とその関連資格		看護師 看護師
一般目標	精神が障害された対象者及び家族の理解と、精神の健康障害や精神症状によって影響された患者の状態を学ぶ。				
成績評価	単位認定試験の成績で総合評価する。			授業の方法	講義
教科書	精神看護学2 精神障害を持つ人の看護 (メジカル社)				
教科内容	<p>1. 精神障害者が抱える症状の理解</p> <p>1) 精神症状</p> <p>①精神現象の基礎</p> <p>②精神症状の種類 (知覚、思考、自我意識、感情、意欲、知能、記憶ほか)</p> <p>③状態像 (不安、心気、幻覚妄想、抑うつ、精神運動興奮、昏迷、無為・自閉)</p> <p>2) 中枢神経症状</p> <p>①神経症状の識別</p> <p>②中枢神経の症状の種類 (失語、失行、失認)</p> <p>2. 精神障害の診断と検査の種類</p> <p>1) 診断の基礎と要点</p> <p>①観察 ②問診 ③既往歴 ④生活歴 ⑤家族歴</p> <p>2) 検査の種類</p> <p>①神経学的検査</p> <p>②神経学的補助診断法</p> <p>X線および磁気による頭部検査、脳波検査、髄液検査</p> <p>③心理検査</p> <p>知能テスト、人格検査、記銘力検査、視覚・運動検査、乳幼児の精神発達検査、親子関係や家族関係に関する検査、高齢者の知能機能検査</p> <p>3. 主な精神障害の理解と診療</p> <p>1) 薬物療法</p> <p>①抗精神病薬 ②抗うつ薬 ③抗不安薬 ④抗躁薬</p> <p>⑤睡眠薬 ⑥抗てんかん薬 ⑦抗認知症薬</p> <p>2) 電気痙攣療法</p> <p>3) 社会復帰療法</p> <p>4) 精神療法</p> <p>5) 主な疾患の診療</p> <p>①統合失調症 ②躁うつ病 ③神経症と心因性精神病</p> <p>④人格障害 ⑤器質性精神障害 ⑥症状精神病</p> <p>⑦アルコール依存と薬物依存 ⑧てんかん</p> <p>⑨児童・思春期の主な精神障害</p>				

科目名	精神看護学方法論Ⅲ (精神障害者の看護他)				
開講時期	2年次後期	単位数	1	時間数	30
講師	木村 祐樹 上野 憲正 佐々木 早秋	実務経験とその関連資格		看護師 看護師 保健師	
一般目標	精神が障害された対象者及び家族の理解と、精神の健康障害や精神症状によって影響された患者の状態を把握し、援助する能力を養う。				
成績評価	単位認定試験の成績で総合評価する。			授業の方法	講義
教科書	ナーシンググラフィカ 情緒発達と看護の基本 (メディカ出版)				
教科内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神看護の歴史 2. 患者の理解 3. 精神保健福祉法 4. 精神看護とは <ol style="list-style-type: none"> 1) 精神疾患看護と精神看護の違い 2) 基本的な精神機能と主要症状について 5. 接触の技術 <ol style="list-style-type: none"> 1) 精神障害者のコミュニケーションの特徴 2) 患者との接触方法 3) 信頼を築く面接パターン 6. 観察と記録 <ol style="list-style-type: none"> 1) 精神科における観察の特徴と基本姿勢 2) 観察の方法と主な観察点 3) 記録 4) プロセスレコードの記載方法 7. 病室環境の調整 <ol style="list-style-type: none"> 1) 病棟の開放 2) 雰囲気への配慮 8. 入院生活上の問題とケアの視点 <ol style="list-style-type: none"> 1) 私物の管理 2) 書簡、面接の取り扱い 3) 精神科における事故 4) 隔離・身体拘束時の援助 5) 隔離室症候群(肺動脈血栓塞栓症) 9. 主な症状に対する看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 不安症状 2) 心気状態 3) 強迫状態 4) 抑うつ状態 5) 自殺企図 6) 幻覚・妄想状態 10. 診察・検査に伴う看護 11. 薬物療法に伴う看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 薬物療法の目的 2) 服薬に対する意識 3) 服薬の進め方 4) 抗精神薬とは 12. 電気痙攣療法を受ける患者の看護 13. 社会療法を受ける患者への援助 <ol style="list-style-type: none"> 1) 社会療法 2) 生活指導の進め方と看護 3) 作業療法の歴史、目的、方法 4) レクリエーション療法 5) 生活技能訓練 14. 疾患をもつ患者の看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 統合失調症 2) 気分障害者の看護 3) 適応障害患者の看護 4) アルコール依存症患者の看護 5) 外傷後ストレス障害(PTSD)患者の看護 6) 不安障害(パニック発作)患者と看護 15. 精神科リハビリテーションの展開 <ol style="list-style-type: none"> 1) 精神科リハビリテーションと地域精神保健 2) 地域のリハビリテーションサービス 3) 社会復帰・社会参加の基本 16. リエゾン精神看護 17. 看護過程の展開 				

科目名	在宅看護概論				
開講時期	2年次後期	単位数	1	時間数	30
講師	本校教員 石川 智美		実務経験とその関連資格	看護師	
一般目標	我が国の在宅看護の歴史及びケアシステムをはじめ、対象を取り巻く地域社会を理解するための方法を学ぶ。また、在宅看護を支えるさまざまな職種とその協働について学ぶ。				
成績評価	単位認定試験の成績で総合評価する。		授業の方法	講義	
教科書	在宅看護論（医学書院）、ナーシンググラフィカ 地域医療を支えるケア（メディカ出版）				
教科内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護の目的と特徴 <ol style="list-style-type: none"> 1) 在宅看護の目指すもの 2) 在宅看護における看護師の役割と機能 2. 在宅看護の対象者 <ol style="list-style-type: none"> 1) 対象者の特徴 <ol style="list-style-type: none"> ①年齢 ②疾患 ③障害 2) 家族 <ol style="list-style-type: none"> ①対象者としての家族 ②システム理論を用いたとらえ方 ②家族アセスメント 3. 在宅看護のしくみ <ol style="list-style-type: none"> 1) 保健医療福祉の動向 2) 訪問看護制度の創設と発展経緯 3) 介護保険制度 4) 訪問看護制度 5) 訪問看護倫理要項 6) 関係法令 4. 世界の訪問看護の動向 5. 在宅看護の展開 <ol style="list-style-type: none"> 1) 在宅看護過程の展開ポイント 2) 在宅看護過程 <ol style="list-style-type: none"> ①在宅看護過程展開の特徴 ②情報収集とアセスメント ③目標・計画 ④実施と評価 3) 多職種との連携 4) 在宅看護における安全性の確保 <ol style="list-style-type: none"> ①感染防止 ②医療事故防止 ③災害時の在宅看護 5) 対象者（家族も含む）の権利保障 <ol style="list-style-type: none"> ①尊厳 ②自己決定権 ③個人情報保護 ④情報の開示 ⑤成年後見制度 ⑥虐待 ⑦在宅看護における法律問題 				

科目名	リハビリテーション看護				
開講時期	2年次後期	単位数	1	時間数	16
講師	長野 由紀江	実務経験とその関連資格		理学療法士	
一般目標	心身の機能・構造に何らかの障害を有し、日々の生活や社会生活に支障をきたした人が、その人として最善のレベルの機能に回復していく過程を支援するための方法を学ぶ。				
成績評価	単位認定試験の成績で総合評価する。		授業の方法	講義	
教科書	リハビリテーション看護 (メジカル社)				
教科内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーション看護概論 <ol style="list-style-type: none"> 1) リハビリテーションの概念 2) リハビリテーションの対象者の特徴 3) 障害の概念 4) リハビリテーション看護の基礎 5) 看護師の役割 2. リハビリテーション看護に共通した看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) QOLを高めるセルフケアへの援助 2) 生活に活かすリハビリテーション看護 3) 二次障害予防 3. リハビリテーション看護における各種測定法と看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 各種測定法の意義 2) 関節可動域テスト 3) 徒手筋力テスト 4) 片マヒ機能テスト 5) 知覚検査 6) 高次脳機能評価 4. ADLの拡大と自立への看護ケア <ol style="list-style-type: none"> 1) 呼吸 2) 姿勢、移動、歩行 3) 運動 5. 障害別リハビリテーション看護の展開 <ol style="list-style-type: none"> 1) 脳血管障害 2) 脊髄損傷 6. 実習 <p>基本動作（起居動作、歩行動作、他動的関節可動域運動）</p> 				

科目名	在宅看護技術論 (訪問看護含)				
開講時期	2年次後期	単位数	1	時間数	30
講師	板垣 園子 坂本由美子 佐藤美佳子	実務経験とその関連資格		看護師 看護師 看護師	
一般目標	心身の機能・構造に何らかの障害を有し、日々の生活や社会生活に支障をきたした人とその家族が、障害を抱えながらもその人らしい生活を送るために必要な援助方法を学ぶ。				
成績評価	単位認定試験の成績で総合評価する。		授業の方法	講義	
教科書	ナーシンググラフィカ 地域医療を支えるケア、在宅療養を支える技術 (メディカ出版)				
教科内容	<p>1. 在宅看護技術</p> <p>1) 在宅で看護を展開するにあたって</p> <p>①「活動」制限のアセスメントと「生活行為」への援助</p> <p>②必要な介助を見極めるための動作分析</p> <p>2) 在宅で求められる技術の応用</p> <p>①呼吸機能に関する在宅看護技術</p> <p>②食生活・嚥下に関する在宅看護技術</p> <p>③排泄に関する在宅看護技術</p> <p>④移動移乗に関する在宅看護技術</p> <p>⑤認知機能のアセスメント</p> <p>⑥在宅における終末期看護</p> <p>2. 在宅看護の実際</p> <p>1) 在宅看護介入時期別の特徴</p> <p>2) 在宅で求められる技術の応用事例展開</p> <p>①脳卒中</p> <p>②パーキンソン病</p> <p>③認知症</p> <p>④小児</p> <p>⑤ALSで人工呼吸器を装着している療養者</p> <p>⑥COPDの療養者</p> <p>⑦独居</p> <p>⑧終末期 (がん)</p> <p>⑨統合失調症</p>				

科目名	緩和ケア				
開講時期	2年次後期	単位数	1	時間数	16
講師	井上 智美	実務経験とその関連資格		看護師	
一般目標	人間が体験する苦痛の緩和に対しては、医療従事者が協働で取り組むことが重要である。対象者が闘病生活で体験する種々の苦痛に対して、看護師はどのようにしてマネジメントし、どのようなケアを提供していけばよいかについて学ぶ。また、死の看取りについても学ぶ。				
成績評価	単位認定試験の成績で総合評価する。			授業の方法	講義
教科書	別巻 緩和ケア (医学書院)				
教科内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 死を考える <ol style="list-style-type: none"> 1) 死とはなにか 2) 死の心理学：死の受容に至るプロセス 3) 生と死の教育の意義と医療従事者 2. 死に直面した人間の現実 <ol style="list-style-type: none"> 1) 死の受け止め方 2) 死に直面した人の理解 3) 死に直面した人が抱える痛み 3. 真実の伝え方と支え <ol style="list-style-type: none"> 1) 真実を伝えることの重要性 2) コミュニケーションの重要性 4. 緩和ケアの進め方 <ol style="list-style-type: none"> 1) 緩和ケアとは何か 2) 緩和ケアの担い手 3) 緩和ケアの方法 4) 死の看取りと医療者 5) グリーフケアの方法 6) システムの違いからみた緩和ケアの特性 5. 死をめぐる現代医療の課題 <ol style="list-style-type: none"> 1) 病気にかかわる現代医療の課題 2) 患者の人権 3) ケアにかかわる現代医療の課題 				

科目名	看護管理 (看護研究含)				
開講時期	2年次後期	単位数	1	時間数	30
講師	鳥居 明美 野里 同		実務経験とその関連資格		看護師 看護師
一般目標	効果的な看護実践のために必要なマネージメントについて学ぶ。また、日々の看護業務を通し安全な医療を提供するための要点と、医療事故を防ぐためのリスクマネージメントのあり方について研究を通し、総合的な視点で学ぶ。				
成績評価	単位認定試験の成績で総合評価する。			授業の方法	講義
教科書	系統看護学講座 看護管理、看護研究の進め方 論文の書き方 (医学書院)				
教科内容	<p>1. 看護とマネジメント</p> <p>1) 看護管理学とは</p> <p>2) マネジメントとは</p> <p>3) 看護におけるマネジメント</p> <p>2. ケアのマネジメント</p> <p>1) ケアのマネジメントと看護職の機能</p> <p>2) 看護基準と看護手順</p> <p>3) 患者の権利の尊重</p> <p>4) 安全管理</p> <p>①日常の対応 対象者の安全確保、院内感染予防</p> <p>②非常時の対応 医療事故、災害対策</p> <p>5) 看護職の協働</p> <p>①看護ケア提供システム ②コミュニケーション ③連携</p> <p>6) 多職種との協働</p> <p>チーム医療の過去・現在・未来の考え方</p> <p>①医師との連携・協働 医師と看護師の業務 (医師法、保健師助産師看護師法)</p> <p>②医療関連職種との連携 ③その他の関連職種との連携</p> <p>7) 情報</p> <p>①情報の記録・保管・蓄積 ②記録の役割 ③情報の伝達・共有・活用</p> <p>④プライバシーに関する情報</p> <p>3. 看護サービスのマネジメント</p> <p>1) 看護サービスのマネジメント</p> <p>①看護管理の定義 ②看護サービスのマネジメントの対象と範囲</p> <p>2) 組織目的達成のマネジメント</p> <p>①理念の形成と浸透 ②現状分析・情報収集 (マーケティング)</p> <p>③看護の組織化 ④その他の組織構造 (委員会・会議)</p> <p>3) 協働のためのマネジメント</p> <p>①人材フローのマネジメント ②看護ケア提供システムと看護単位 ③看護単位の機能と特徴 ④人事・労務関係管理 ⑤労使関係管理 ⑥物的資源管理</p> <p>4) 情報のマネジメント</p> <p>①情報の種類②情報の管理③守秘義務④プライバシーの保護⑤情報開示への対応</p> <p>4. 看護研究の実際</p> <p>1) EBMとEBNの重要性</p> <p>2) 医療事故防止に役立つ実践的トレーニングの研究</p> <p>3) 看護研究と倫理 4) 研究発表とクリティーク</p>				

科目名	国際看護				
開講時期	3年次後期	単位数	1	時間数	32
講師	富岡 幸子 岩間亜由美（本校教員） ほか、国際交流委員	実務経験とその関連資格		看護師 看護師	
一般目標	人々の健康に影響を与える政治・経済・文化などの社会的環境に対する理解と関心を広げるとともに、看護の国際協力のあり方について理解する。				
成績評価	単位認定試験の成績で総合評価する。		授業の方法	講義	
教科書	国際看護（南江堂）				
教科内容	<p>1. 国際看護とは</p> <p>1) 国際看護を学ぶ理由</p> <p>① 国際的な視野をもつことの意味</p> <p>② 国際看護学の概念・目的</p> <p>③ 国際社会における日本の役割と看護</p> <p>2) 国際社会の現状と国際看護活動の課題</p> <p>3) 国際看護活動の支援と国際看護活動</p> <p>① 国際看護活動が扱う範囲</p> <p>② 海外における看護活動</p> <p>③ 国内の在日外国人への看護活動</p> <p>4) 国際看護活動の展開プロセス</p> <p>5) 異文化理解と国際看護活動</p> <p>① 文化的存在としての人間理解</p> <p>② 文化を考慮した看護</p> <p>③ 国際看護活動に必要な協力</p> <p>6) 国際看護活動の実際</p> <p>① 国際看護活動の3側面</p> <p>② 国際協力活動の実際</p> <p>③ 海外における看護活動の実際</p> <p>④ 在日外国人に対する看護活動</p> <p>7) 国際看護活動参加者の活動報告</p> <p>8) レポート作成と発表</p>				

科目名	医療安全				
開講時期	3年次後期	単位数	1	時間数	30
講師	浅尾 洋子 及川 みどり		実務経験とその関連資格	看護師 看護師	
一般目標	看護師の業務は、常に危険を伴う行為が介在している。ゆえに、対象者の療養生活が安全でかつ適切な援助ができるように、医療安全のための基礎的知識と対応の方法を学ぶ。				
成績評価	単位認定試験の成績で総合評価する。			授業の方法	講義
教科書	系統看護学講座 医療安全 (医学書院)				
教科内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全とリスクマネジメント 2. 医療事故防止の考え方 <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療事故の現状と分析 2) 医療事故発生時の対応 3) 医療事故防止対策 3. 看護ケアに伴う危険 (復習) <ol style="list-style-type: none"> 1) 与薬 (注射・点滴・内服) 指示薬剤量の換算、単位、容量、投与速度の計算など 2) チューブ・カテーテル・ドレーン類 留置中の管理 (抜去防止・固定など)、接続間違い、接続部の外れなど 3) 酸素療法 酸素ポンベの残量計算と使用可能時間の計算 4) ME 機器 (人工呼吸器、シリンジポンプ) 装着時の注意、流量設定、バッテリー、一時停止・再開時および輸液交換時の注意など 4. 起こりやすい医療事故とその対策 (演習) <ol style="list-style-type: none"> 1) 転倒・転落 <ol style="list-style-type: none"> ①ベッドから車椅子 ②廊下歩行中の転倒の危険 ③小児のベッドからの転落の危険 ④入浴中の転倒 ⑤検査台 (診察台) からの転落 2) 痴呆患者の危険行動 <ol style="list-style-type: none"> ①病室 ②ナースステーションでの待機 3) 看護ケアに伴う危険 4) 食事介助中の危険 (摂食、嚥下障害患者) 5) 入浴に伴う危険 (溺水、熱傷など) 6) 排泄介助に伴う危険 5. 多重課題の事例への対応 6. ケアを中断された場合の対応 7. ケアが重複した場合の優先順位の決定 				

科目名	災害看護				
開講時期	3年次後期	単位数	1	時間数	16
講師	金子 拓 石川 智美（本校教員）		実務経験とその関連資格	看護師 看護師	
一般目標	誰もが被災者となる可能性がある昨今、平時より災害に対する心構えをし、訓練を積むことで被害をできるだけ少なくし、また看護師としての役割を果たすことができるようになるための基礎的知識について学ぶ。				
成績評価	単位認定試験の成績で総合評価する。		授業の方法	講義	
教科書	ナーシンググラフィカ 災害看護（メディカ出版）				
教科内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 災害の定義と分類 <ol style="list-style-type: none"> 1) 災害の定義 2) 災害とハザード 3) 災害の分類 4) 災害サイクル 5) 災害が人々に与える影響 2. 災害時の社会保障制度 <ol style="list-style-type: none"> 1) 災害関連の法・制度 2) 救援体制と提供されるサービス救援体制のしくみ 3) 救助活動・救急医療活動 4) 国際的な体制や救援のしくみ 3. 災害への備え <ol style="list-style-type: none"> 1) 防災計画 2) 災害に関する教育・訓練 4. 災害と情報 5. 災害看護とは <ol style="list-style-type: none"> 1) 災害看護の変遷 6. 災害看護における倫理的課題 7. 災害時の看護活動 <ol style="list-style-type: none"> 1) 災害時に特徴的な看護ニーズ 2) 看護ニーズの発見と査定 3) 被災下における看護援助の工夫 8. 被災者への看護ケア <ol style="list-style-type: none"> 1) 災害直後の被災者へのケア 2) 災害復興期の被災者へのケア 3) 災害時要援護別にみた特徴的なケア 9. 災害救援活動 <ol style="list-style-type: none"> 1) 災害支援ボランティア看護師としての活動 2) 救援者自身の防衛 10. 演習 <ol style="list-style-type: none"> 1) トリアージ（分類、方法） 2) AED使用方法 3) 外傷の止血方法 4) 骨折の整復と固定法 5) クラッシュシンドローム（特徴的な所見、処置） 6) 限られた条件下でのバイタルサイン測定 7) 救命処置A・B・C・D 8) 応急処置（ショック、意識障害、熱傷、その他） 				

科目名	基礎看護学実習 I				
開講時期	1年次前期	単位数	1	時間数	45
講師	実習先の医療関係者		実務経験とその関連資格	実習施設における勤務経験	
一般目標	1.入院患者の療養環境が理解できる。 2.患者の状態を考えた看護技術が、指導者と共に実践できる。 3.患者と関わる際に、好ましい対応をすることができる。				
成績評価	出席状況と及び態度に加え、実習評価用による他者評価及びレポート評価で総合的に評価する		授業の方法	実習	
教科書					
教科内容	基礎看護学実習 I 要項を参照				

科目名	基礎看護学実習Ⅱ				
開講時期	2年次前期	単位数	2	時間数	90
講師	実習先の医療関係者		実務経験とその関連資格	実習施設における勤務経験	
一般目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の対象を身体的、心理・精神的、社会的側面から捉える方法を理解し、その個別性を把握する。 2. 対象を尊重する態度を養う。 3. 日常生活の援助技術を実践、習得する。 4. 診察に伴う援助技術を実践、習得する。 5. 問題解決手法で患者に適した看護を計画、実施する。 				
成績評価	出席状況と及び態度に加え、実習評価用による他者評価及びレポート評価で総合的に評価する		授業の方法	実習	
教科書					
教科内容	基礎看護学実習Ⅱ 要項を参照				

科目名	地域と暮らしを知る実習				
開講時期	1年次後期	単位数	1	時間数	45
講師	実習先の医療関係者		実務経験とその関連資格	実習施設における勤務経験	
一般目標	1.生活者である人々の視点で地域を理解する。 2.生活者である人々を尊重した態度でコミュニケーションをとることができる。 3.施設の役割と機能を理解する。 4.施設を利用する人々の個人的な日常生活上のニーズ、大切にしていることを理解する。				
成績評価	出席状況と及び態度に加え、実習評価用による他者評価及びレポート評価で総合的に評価する		授業の方法	実習	
教科書					
教科内容	地域と暮らしを知る実習要項を参照				

科目名	成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ				
開講時期	2年次前期 3年次前期	単位数	6	時間数	270
講師	実習先の医療関係者		実務経験とその関連資格	実習施設における勤務経験	
一般目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.成人期の身体的、精神的、社会的特徴が把握できる。 2.成人期の健康維持・増進のための看護活動を実践することができる。 3.成人期の健康障害を把握し、急性・慢性に経過する人への看護を実践することができる。 4.健康障害から回復期にある人の看護を実施することができる。 5.終末期にある人とその家族に対して、心身の安楽に向けて必要な看護を考えることができる。 				
成績評価	出席状況と及び態度に加え、実習評価用による他者評価及びレポート評価で総合的に評価する		授業の方法	実習	
教科書					
教科内容	成人看護学実習要項を参照				

科目名	老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ				
開講時期	2年次前期・後期	単位数	4	時間数	180
講師	実習先の医療関係者		実務経験とその関連資格		実習施設における勤務経験
一般目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老年期の特徴を理解し、身体的・心理的・社会的な側面から捉えることができる。 2. 老年期の日常生活行動・健康状態を把握し、生活背景・生活習慣との関連を理解し、健康の維持・増進、健康障害の予防のための援助ができる。 3. 老年期における健康障害の複雑性を理解し、健康障害の段階に応じた援助ができる。 4. 対象者の生活能力と減退と健康障害に対して、家族が支援できるように援助ができる。 5. 対象者の生活史を理解し、信条・信念・価値観を尊重した行動がとれる。 				
成績評価	出席状況と及び態度に加え、実習評価用による他者評価及びレポート評価で総合的に評価する		授業の方法	実習	
教科書					
教科内容	老年看護学実習要項を参照				

科目名	小児看護学実習				
開講時期	3年次前期	単位数	2	時間数	90
講師	実習先の医療関係者		実務経験とその関連資格		実習施設における勤務経験
一般目標	1. 絶えず成長発達している小児の特性を理解する。 2. 小児の成長発達、健康状態を把握し、自立に向けた日常生活行動の援助ができる。 3. 小児と家族の生活環境について理解し、必要な援助方法を学ぶ。 4. 小児看護における保健医療チームの連携を学び、その中における看護の役割を理解する。 5. 療育活動を通して対象者を理解し、必要な援助を学ぶ。 6. 実習を通じて小児観を育てる。				
成績評価	出席状況と及び態度に加え、実習評価用による他者評価及びレポート評価で総合的に評価する		授業の方法	実習	
教科書					
教科内容	小児看護学実習要項を参照				

科目名	母性看護学実習				
開講時期	3年次前期	単位数	2	時間数	90
講師	実習先の医療関係者		実務経験とその関連資格		実習施設における勤務経験
一般目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 周産期にある対象の基本的ニーズを理解できる。 2. 妊婦褥婦に必要な看護を考え、基本的技術の実際を指導者と共に実践できる。 3. 生命の誕生に携わるチームの一員として看護師の役割が理解できる。 4. 新生児の生理を理解し、児の観察と基本的な援助ができる。 5. 実習を通じて学生自身の親性を育てる。 				
成績評価	出席状況と及び態度に加え、実習評価用による他者評価及びレポート評価で総合的に評価する		授業の方法	実習	
教科書					
教科内容	母性看護学実習要項を参照				

科目名	精神看護学実習				
開講時期	3年次前期	単位数	2	時間数	90
講師	実習先の医療関係者		実務経験とその関連資格		実習施設における勤務経験
一般目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.精神に障害のある人とその家族を理解する。 2.入院している対象者の日常生活場面をとおして、実際に行われている治療および看護を体験し看護者の役割を学ぶ。 3.精神に障害のある人の看護に携わるものとして求められる人間性を理解し、人々への対応能力を養う。 				
成績評価	出席状況と及び態度に加え、実習評価用による他者評価及びレポート評価で総合的に評価する		授業の方法	実習	
教科書					
教科内容	精神看護学実習要項を参照				

科目名	在宅看護論実習				
開講時期	3年次後期	単位数	2	時間数	90
講師	実習先の医療関係者		実務経験とその関連資格		実習施設における勤務経験
一般目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅で療養している対象者とその家族が大切にしている価値観や人生を知り、生活上および健康上の課題を理解する。 2. 対象者とその家族のQOLの維持・向上を目指した看護を学び、その一部を実践する。 3. 社会資源の活用、関係機関との連携・協働について理解を深め、保健医療福祉チームの中での看護の役割を理解する。 4. 対象者と家族が暮らす地域包括ケアシステムを理解する。 				
成績評価	出席状況と及び態度に加え、実習評価用による他者評価及びレポート評価で総合的に評価する		授業の方法	実習	
教科書					
教科内容	在宅看護論実習要項を参照				

科目名	看護の統合と実践				
開講時期	3年次 7月～9月	単位数	2	時間数	90
講師	実習先の医療関係者		実務経験とその関連資格		実習施設における勤務経験
一般目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.複数患者の看護を、優先順位と時間管理を考慮し実践できる。 2.看護チームリーダー、メンバーの役割を理解する。 3.病棟管理、看護管理の実際を理解する。 4.就寝前の患者の状況を把握することで、患者の日常生活を総合的に理解する。 5.既習の知識・技術・態度を統合し、看護の実践力を高める。 6.過去の学習を振り返り、将来の自分の看護師像を明確にする。 				
成績評価	出席状況と及び態度に加え、実習評価用による他者評価及びレポート評価で総合的に評価する		授業の方法	実習	
教科書					
教科内容	看護の統合と実践実習要項参照				